

2022年度 卒業論文

地域子育て支援拠点事業・

かるがも親子の家についての研究

—20年繋がり広がりつづける地域のおかみさんの思い—

長岡造形大学

造形学部建築・環境デザイン学科

渡邊研究室

182016 栗田 涼子

目次

第1章 はじめに	1
1-1 研究の背景.....	1
1-2 研究の目的.....	3
1-1 研究フロー.....	3
第2章 先行研究について	4
2-1 先行研究の要約	4
2-2 先行研究からみる本研究の重要性	5
第3章 かるがも事業の現状	6
3-1 かるがも事業の事業内容.....	6
3-1-1 かるがも事業の概要	6
3-1-2 かるがも事業の事業内容の特徴.....	8
3-2 かるがも親子の家がおかれる地域の地理	16
3-3 現在かるがも事業に関わられている方のヒアリング	24
3-3-1 施設長・田中昭枝さん	24
3-3-2 地域企業・アーバンシステム株式会社さん.....	26
3-4 現状における課題点について	31
第4章 かるがも事業の歴史	35
4-1 かるがも事業の歴史年表.....	35
4-2 創業者・村上夫妻ヒアリングから読み解くかるがも事業の歴史	35

第5章 アンケート調査について	45
5-1 アンケート調査概要とその結果	45
5-1-1 先行研究のアンケート調査内容	45
5-1-2 本研究のアンケート調査内容	46
5-1-3 本研究のアンケート結果	49
5-2 アンケート結果による分析	55
5-2-1 各質問項目の分析	55
5-2-2 項目を複数組み合わせた分析	62
5-2-3 本研究と先行研究の結果を組み合わせた分析	64
第6章 結び	68
6-1 結論	68
6-2 今後の展望	70
6-3 かるがも事業の方からのお言葉	71
謝辞	73
参考文献表	73

第1章 はじめに

1-1 研究の背景

年々、子育て中の保護者が置かれる環境は、孤立感の高いものになっている。

その背景として、核家族化・都市化の進展にともなう家庭の養育力の低下がある。図 1-1、厚生労働省が行った 2021 年の国民生活基礎調査結果⁽¹⁾によると、児童のいる世帯の 82.6%が核家族であり、その割合は今現在まで増加傾向にある。また、近隣関係の希薄化もあり、それは 2020 年より拡大した新型コロナウイルス感染症により更に顕著になり、身近に相談相手や支えてくれる人がいない状態の養育者が増えたことは間違いないだろう。その結果、育児ノイローゼや児童虐待などを引き起こす要因に繋がっている。実際、児童虐待については、厚生労働省が行った 2021 年児童虐待相談対応件数によると、件数は 20 万 7,659 件で、前年度より 2,615 件 (1.3%) 増え、過去最多を更新している。

このような状況で、政府は身近な地域単位で子育てを支援する事業、“地域子育て支援拠点事業”を推進している。“地域子育て支援拠点事業”とは、2015 年 4 月「子ども・子育て支援新制度」が制定され、その中で、1994 年「エンゼルプラン」の子育て支援拠点事業（法定化：2003 年）が改革された作成されたものだ。基本事業として

- ア 子育て親子の交流の場の提供と交流の促進
- イ 子育て等に関する相談、援助の実施
- ウ 地域の子育て関連情報の提供
- エ 子育て及び子育て支援に関する講習等の実施（月 1 回以上）

を行うと定められている。図 1-2、“地域子育て支援拠点事業”の実施か所数は、厚生労働省の調査⁽²⁾によると昨年（2021 年）全国で 7,856 か所展開し、その数は平成 14 年時点の 2,196 か所から、年々右肩上がりに増えている。

その“地域子育て支援拠点事業”の中で、東京都練馬区北町にある“社会福祉法人北町大家族かるがも親子の家・北町”（以下、かるがも事業^[1]）は、1998 年に商店街のおかみさんの熱い思いにより自発的に子育て支援が始まり、その後 20 年以上その熱い思いを受け継いで、形を変えながら地域の子育てを支援し続けている。創立当時、自発的に商店街から始まった子育て支援団体は珍しく、メディアにも取り上げられ、その特異性から 2012 年にかるがも事業についての先行研究もおこなわれている。また、かるがも事業の置かれている環境として、少子高齢化が進んでいる本国では珍しい、子育て世代の多い地域となっている。

[1]本論文では、社会福祉法人北町大家族かるがも親子の家・北町の組織、取り組みをかるがも事業と呼ぶ。

図 1-1 (1)

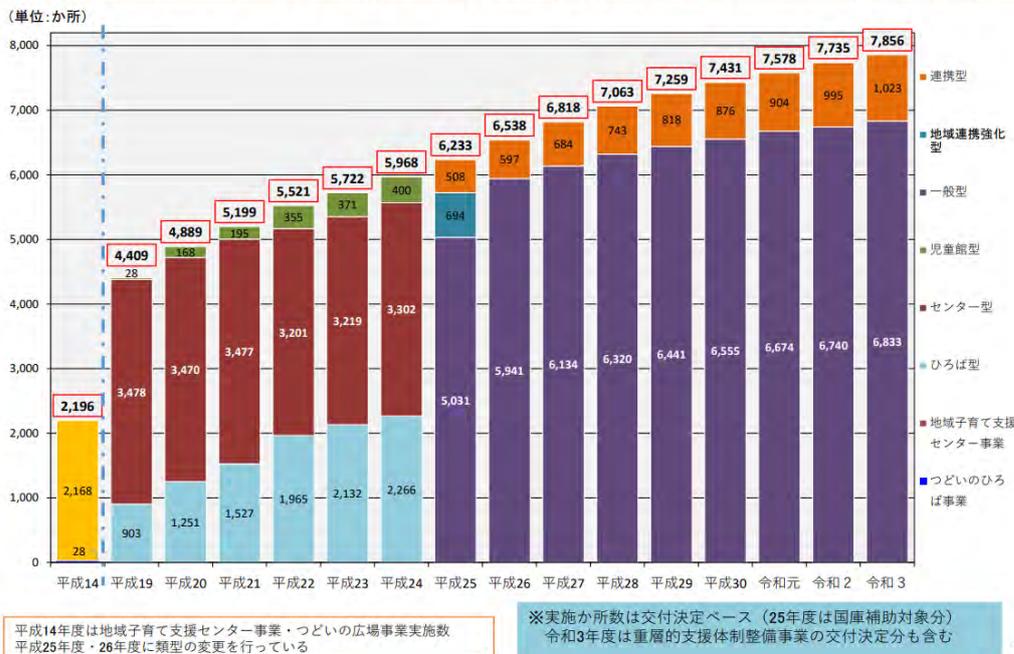
表 5 児童数別、世帯構造別児童のいる世帯数及び平均児童数の年次推移

	児童のいる世帯		児童数			世帯構造					児童のいる世帯の平均児童数
	全世帯に占める割合 (%)	1人	2人	3人以上	核家族世帯	夫婦のみの子世帯	ひとり親と未婚の子の世帯	三代世帯	その他の世帯		
			推計数			(単位:千世帯)					(人)
1986 (昭和61)年	17 364 (46.2)	6 107	8 381	2 877	12 080	11 359	722	4 688	596	1.83	
89 (平成元)	16 426 (41.7)	6 119	7 612	2 695	11 419	10 742	677	4 415	592	1.81	
92 (平成4)	15 009 (36.4)	5 772	6 697	2 540	10 371	9 800	571	4 087	551	1.80	
95 (平成7)	13 586 (33.3)	5 495	5 854	2 237	9 419	8 840	580	3 658	509	1.78	
98 (平成10)	13 453 (30.2)	5 588	5 679	2 185	9 420	8 820	600	3 548	485	1.77	
2001 (平成13)	13 156 (28.8)	5 581	5 594	1 981	9 368	8 701	667	3 255	534	1.75	
04 (平成16)	12 916 (27.9)	5 510	5 667	1 739	9 589	8 851	738	2 902	425	1.73	
07 (平成19)	12 499 (26.0)	5 544	5 284	1 671	9 489	8 645	844	2 498	511	1.71	
10 (平成22)	12 324 (25.3)	5 514	5 181	1 628	9 483	8 669	813	2 320	521	1.70	
13 (平成25)	12 085 (24.1)	5 457	5 048	1 580	9 618	8 707	912	1 965	503	1.70	
16 (平成28)	11 666 (23.4)	5 436	4 702	1 527	9 386	8 576	810	1 717	564	1.69	
17 (平成29)	11 734 (23.3)	5 202	4 937	1 594	9 698	8 814	885	1 665	371	1.71	
18 (平成30)	11 267 (22.1)	5 117	4 651	1 599	9 385	8 623	761	1 537	345	1.71	
19 (令和元)	11 221 (21.7)	5 250	4 523	1 448	9 252	8 528	724	1 488	480	1.68	
20 (令和2)	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
21 (令和3)	10 737 (20.7)	5 026	4 267	1 444	8 867	8 178	689	1 384	486	1.69	
			構成割合			(単位:%)					
1986 (昭和61)年	100.0	35.2	48.3	16.6	69.6	65.4	4.2	27.0	3.4		
89 (平成元)	100.0	37.2	46.3	16.4	69.5	65.4	4.1	26.9	3.6		
92 (平成4)	100.0	38.5	44.6	16.9	69.1	65.3	3.8	27.2	3.7		
95 (平成7)	100.0	40.4	43.1	16.5	69.3	65.1	4.3	26.9	3.7		
98 (平成10)	100.0	41.5	42.2	16.2	70.0	65.6	4.5	26.4	3.6		
2001 (平成13)	100.0	42.4	42.5	15.1	71.2	66.1	5.1	24.7	4.1		
04 (平成16)	100.0	42.7	43.9	13.5	74.2	68.5	5.7	22.5	3.3		
07 (平成19)	100.0	44.4	42.3	13.4	75.9	69.2	6.8	20.0	4.1		
10 (平成22)	100.0	44.7	42.0	13.2	76.9	70.3	6.6	18.8	4.2		
13 (平成25)	100.0	45.2	41.8	13.1	79.6	72.0	7.5	16.3	4.2		
16 (平成28)	100.0	46.6	40.3	13.1	80.5	73.5	6.9	14.7	4.8		
17 (平成29)	100.0	44.3	42.1	13.6	82.7	75.1	7.5	14.2	3.2		
18 (平成30)	100.0	45.4	40.4	14.2	83.3	76.5	6.8	13.6	3.1		
19 (令和元)	100.0	46.8	40.3	12.9	83.5	76.0	6.5	13.3	4.3		
20 (令和2)	---	---	---	---	---	---	---	---	---		
21 (令和3)	100.0	46.8	39.7	13.5	82.6	76.2	6.4	12.9	4.5		

注: 1) 1995(平成7)年の数値は、兵庫県を除いたものである。
 2) 2016(平成28)年の数値は、熊本県を除いたものである。
 3) 2020(令和2)年は、調査を実施していない。
 4) 「その他の世帯」には、「単独世帯」を含む。

図 1-2 (2)

1. 地域子育て支援拠点事業の実施か所数の推移 【事業類型別】



1-2 研究の目的

1-1 より本研究ではかるがも事業を研究対象とし、

①かるがも事業の現状を細かく記述し文献とし残す

②かるがも事業の歴史を整理する

……①、②より 20 年前からいち早く、それから途切れることなく子育て支援を行い、更に地域から自発的に始められたかるがも事業の歴史や現状を文献として残すことにより、より具体的な“子育て支援”の変遷をたどることができ、今後も続くであろう“子育て支援”の参考となる資料を作り上げる。

③かるがも事業の現状から見えてきた今後の子育て支援の課題点を探る

④先行研究と本研究の調査を分析する

……上記の通り本研究には 10 年前に行われた先行研究があるため、本研究の調査と比べどのような変化があるかまとめる。

上記の 4 点を目的とする。

1-3 研究フロー

第 2 章では、本研究の基盤となる先行研究の要約を行うとともに、本研究の重要性を明らかにする。

第 3 章では、現地調査、現在のかるがも事業に関わる方からのヒアリングを通して、かるがも事業の内容、立地の 2 点よりかるがも事業の現状を明らかにし、そこから見えてくる課題を記す。

第 4 章では、創業者からのヒアリングをもとに、かるがも事業の歴史の変遷、人々の思い等を記す。

第 5 章では、本研究のアンケート調査結果をまとめ、それを様々な角度からの分析、先行研究結果との比較による分析を行い、結果をまとめる。

第 6 章では、本研究の結論とともに、かるがも事業の方からのお言葉を記す。

第2章 先行研究について

本研究では、2012年10月に早稲田大学が発表した「母親の地域参加からみた育児支援事業を支える商店街とNPOの協同関係構築プロセス—東京都練馬区ニュー北町商店街育児支援事業「かるがも親子の家」を対象として—⁽³⁾」を主な先行研究とし、現在のかるがも事業との比較対象とする。

2-1 先行研究の要約

i. 研究の目的

既往研究では育児に必要な都市環境整備について述べられているものは多くあるが、育児において地域単位で子育てを見守っていく社会関係資本の構築について述べられているものは少ない。そのため、未就学児童を持つ母親が地域とのかかわりを持つ社会関係資本の構築プロセスに注目し、下記4点を把握することを目的とする。

- ①母親の商店街行事への参加プロセス
- ②商店街行事による母親の商店主との関わり方の変化
- ③母親の行事への参加拡大
- ④商店街とかるがも事業との関係が構築出来た要因

以上より母親を商店主と結び付け、地域参加へと導いているNPOと商店街の協同関係構築プロセスを明らかにする。

ii. 研究方法

- アンケート調査 対象：現在のかるがも事業を利用している母親（30名）
- ヒアリング調査

対象：i.NPO設立当初にかるがも事業を利用していた母親（10名）

- ii.NPO理事を務める商店主
- iii.NPO設立当初からかかわっている保育士
- iv.ニュー北町商店街の商店主（5名）

iii. 研究結果

- ①かるがも事業が地域で孤立している母親に対して母親同士の交流の場を提供している。また、そこから生まれた母親コミュニティは保育士の呼びかけにより商店街行事へと参加する。その参加傾向は交流の場を介した母親と保育士の交流の深さに影響していると考えられる。
- ②保育士は商店主と母親を繋ぐために商店街行事を企画した。それによって母親は商店主

と団体としての交流を行うことが分かった。しかし、NPO 設立当初のような商店主と母親の密な交流関係を築くまでには至っていない。

- ③商店街行事に参加する事で母親は地域への愛着や興味生まれ、地域行事へも参加している事が明らかになった。
- ④NPO 設立当初から、かるがも事業に参加している保育士は委託事業後に商店主と母親の関係を取り持とうとした。それにこたえる形で NPO の設立に携わった商店主は積極的に協力した。以上より、保育士と商店主の協同関係が構築され、母親の地域参加を下支えする環境が作られている。

2-2 先行研究からみた本研究の重要性

子育て支援の現場は常に変化している。子育て世代の置かれる状況も年々変化し、それに合わせ国の取り組みも変わり、事業の名称も先行研究が行われた 10 年前から“育児支援事業”から“地域子育て支援拠点事業”と変化し、内容、政策も年々改正または新設されている。また、10 年前の先行研究では、子育ての主体として“母親”を対象としているが、現在の子育ては両親で支え合っていくべきだという考えが一般的になっている。このことから 10 年前と現在は前提から違うことが分かる。つまり、子育て支援の現場についての研究は年々更新する必要がある。

そこで本研究では、先行研究のようなかるがも事業をもとに商店街を中心とした母親の地域参加について焦点を当てた研究ではなく、かるがも事業そのものに焦点を当てた研究を行う。創立当初から世間に注目されていたことにより資料も残っており、先行研究もおこなわれているかるがも事業を研究対象とし、それらを土台に、“現在”の子育て支援にフォーカスし記述を残す。つまり、具体的な 1 つの事業、かるがも事業を対象とした、日本の子育て支援というものが始まってから現在までの変遷をたどれる資料を目指す。

それは、これからも続くことであろう子育て支援の途中経過を示すこととなり、今後も新たな政策を考えていく中で一つの参考文献となることを望む。

第3章 かるがも事業の現状

本章では、研究目的①、③にあたる、かるがも事業の現状を細かく記述し文献とし残す、かるがも事業の現状から見えてきた今後の子育て支援の課題点を探るについて記す。3-1ではかるがも事業の事業内容とその特徴をまとめる。3-2では立地からみた、かるがも事業の特徴をまとめる。3-3では、現在かるがも事業に関わっている方からのヒアリング内容をまとめる。3-4では、3-1から3-3より見えてきた課題点をまとめる。

3-1 かるがも事業の事業内容

本節では、かるがも事業の概要についてと8回にわたる現地調査によって判明したかるがも事業の特徴をまとめる。

3-1-1 かるがも事業の概要

○名称：社会福祉法人「北町大家族」かるがも親子の家・北町

○事業にあたる政策名：地域子育て支援拠点事業・一般型

○運営母体：2017年- 社会福祉法人「北町大家族」^[2]

○運営組織：3名（保育士2名）

施設長：田中昭枝さん（保育士資格あり）

スタッフ：平野さん（元かるがも事業利用者）

齋藤さん（保育士資格あり）



図 3-1 スタッフの皆さん（右から田中さん、平野さん、齋藤さん）

○所在地：〒179-0081 東京都練馬区北町 2-21-5 北町2町目町会会館3階
エレベーターあり（2022年4月より移転）



図 3-2 2丁目町会会館外観

○事業目的：本法人の基本理念である「優しさ宣言」のもと、地域で子育て親子が安心して集い、相互の交流やサポート（相談・支援）を受けるなかで、育児の喜び、楽しさを実感・共有できる場所と時間の提供を目指す

○対象者：0 から 3 歳まで赤ちゃんとその親

○利用方法

- ・開室日時：月・木・金（祝・祭日を除く） 10:00~15:00
新型コロナウイルス拡大以降 2 または 3 部制で各部 10 組限定
- ・利用料金：なし
- ・情報提示：社会福祉法人「北町大家族」HP ⁽⁴⁾・広場設置掲示板

<新型コロナウイルス感染対策>

- ・大人のみマスク着用
- ・入室時体温測定、アルコール消毒（お子さまはできる子のみ）、手洗い、退出時アルコール消毒
- ・利用者の体調管理カードの記入
- ・定期的に換気
- ・おもちゃ、部屋内、エレベーターの消毒 1日3回朝、昼、終了時



図 3-3 感染対策の様子

○利用状況（かるがも事業データより）

表 3-1

	2019年 (コロナ拡大以前)	2021年
年間平均開室日数(日)	142	142
年間平均利用人数(人)	4500	3000
月平均利用人数(人)	370	250

○主な活動内容

- ① 子育て親子の交流の場の提供と交流の促進
- ② 子育て等に関する相談、援助の実施
- ③ 地域の子育て関連情報の提供
- ④ 子育て及び子育て支援に関する講習等の実施

一般的な
地域子育て支援事業の取り組み

+

- ⑤地域との関りをもたらしイベントの実施

[2]社会福祉法人「北町大家族」

社会福祉法人「北町大家族」とは、北町地域を中心に活動しており、地域住民との結びつきを深め、「人にやさしい街づくり」を目指し活動をおこなっている。商店街の方々のよるボランティア活動から始まり、現在では、練馬区の支援事業として、地域子育て支援拠点事業を2箇所（かるがも親子の家北町、氷川台、相談情報広場1箇所（ハーモニー北町）、更に練馬区よりの委託事業として、いきがいサービス事業を3箇所、学童保育事業を3箇所（ねりっこ学童クラブ北町西小、北町小、北町西小）を運営している。大家族という名前の通り、育児支援から高齢者支援まで幅広い福祉事業を行っている。

3-1-2 かるがも事業の事業内容の特徴

i. 講習、講座、イベント、行事の充実

かるがも事業が位置する北町は練馬区中心部へのアクセスが悪く、利用者^[3]は子育てについての講習、講座に子供を連れていくことが難しい。そのため、かるがも事業は講習、講座を積極的に開くようにしている。また、普通の講習、講座では、子守をしながらの参加になり参加をためらう保護者が多いが、かるがも事業はかるがも事業の場を活かし、子供が普段から遊んでいる慣れ親しんだ場で安心した状態、あやしてくれるスタッフもいる状態で講習、講座を受けることができるという、利用者に寄り添った講習、講座を行っている。

中でもかるがも事業が力を入れて行っている講座が、“生後1～4か月の赤ちゃん和妈妈のプログラム“だ。生後1～4か月の赤ちゃんを育てているお母さんは社会から遠ざかることや体の変化等によっておこるマタニティーブルーを抱える方が多い。そんなお母さん方を救いたく、力を入れているプログラムである。

また、新型コロナウイルス拡大以降は、オンライン講座も行っている。

このように、かるがも事業は利用者に寄り添った講習、講座を企画し、変化し続けていることが分かる。

下記は、かるがも事業が行っている講座、行事、イベントを種類別に整理したもの、実際の講座を行っている際の写真、具体的な6月の講座予定表である。

【今まで実施した講座・種類別】

<定期的実施するもの>

- ・個別育児相談：練馬助産師会助産師
- ・育児講習会：練馬助産師会助産師
ex)「スキンシップマッサージ」、「卒乳講座」
- ・リトミック：音楽教室講師
- ・生後1～4か月の赤ちゃん和妈妈のプログラム：かるがも事業の方

<不定期に行うもの>

- ・栄養講座：保健所管理栄養士
(ex.「離乳食について」「保育園食について」「食育講座」)
- ・口腔ケア講座：歯科衛生士
- ・小児救急講座：地域小児科医師
- ・乳がん講座：ピンクリボンの会
- ・ベビーサイン：日本ベビーサイン協会講師

<その他プログラム、行事>：かるがも見守り隊[詳細：3-1-2、ii]

- ・手遊び・ふれあい遊び
- ・パネルシアター
- ・運動遊び
- ・夏祭り
- ・かるがも阿波踊り
- ・ハロウィン
- ・クリスマス会

[3]本論文では、かるがも事業を利用している親に当たる方を利用者と呼ぶ。

過去行ったイベント

「ママちから」：母親の趣味やキャリアを活かして一人の女性としても輝こうという取り組み

→母親自身の自信につながるのみならず、父親にも披露することにより、母親の一人の女性としての素晴らしさを再認識してもらうきっかけを作る。

「ママヨガ」「ママピラティス」「ママクッキング」「ママコンサート」「ママフェス」
「パパストレッチ」

【講座、講習の実際の様子】



図 3-4 22/6/13 スキンシップマッサージ



図 3-5 22/6/20 乳がん講座



図 3-6 22/7/25 ベビーサイン



図 3-7 22/8/29 コンサートリーディング

練馬子育て支援

かるがも親子の家 6月予定表

ご注意：ひろばの都合により、行事を変更する場合がありますので、ご了承ください。

当日のホームページ等をご確認の上ご参加ください。

下記 行事の詳細はホームページ・広場掲示板にてご案内いたします

行 事： 詳 細	
6/3 (金)	1部 9:30~11:00 自由遊び
	2部 11:00~12:00 生後1~4か月赤ちゃんとママのケアプログラム —申し込み:TELにて予約制— 申込限定広場 「離乳食のお話」 …生後5~8か月の親子も参加できます… 北保健相談所・管理栄養士
	3部 13:00~15:30 自由遊び
6/13 (月)	1部 9:30~11:00 自由あそび
	2部 11:00~12:00 —申し込み:TELにて予約制— 11:00~11:30 「スキンシップマッサージ」 なかま助産所 まんまる〜夢 名嘉真あけみ助産師 対象： 這い這い前の赤ちゃん 持ち物： ○バスタオル ○使い慣れたベビーオイルまたは乳液 申込限定広場 11:30~12:00 「個別育児相談」 0~3歳児親子対象。どなたでも受けられます。
	3部 13:00~15:30 自由遊び オンライン広場 6/13 11:00~ の「スキンシップマッサージ」はオンラインでも参加いただけます
6/16 (木)	1部 9:30~11:00 自由あそび
	2部 11:00~12:00 生後1~4か月赤ちゃんとママのケアプログラム 「赤ちゃん和妈妈の安心抱っこ」 申込限定広場 …抱っこポストチャリング… —申し込み:TELにて予約制— 1級ベビーダンスインストラクター 抱っこポストチャリングインストラクター 五代綾子先生
	3部 13:00~15:30 自由遊び
6/20 (月)	1部 9:30~11:00 自由あそび
	2部 11:00~12:00 かるがも見守り隊 —申し込み:TELにて予約制— 申込限定広場 「乳がんのおはなし」 北保険相談所・ピンクリボンの会 …早期発見で驚ぐいのちと笑顔… 乳がんモデルを使用した「触診体験」も体験もできます。
	3部 13:00~15:30 自由遊び

社会福祉法人★北町大家族 かるがも親子の家 ★

所在：練馬区北町2-21-5 北町2丁目町会館3階

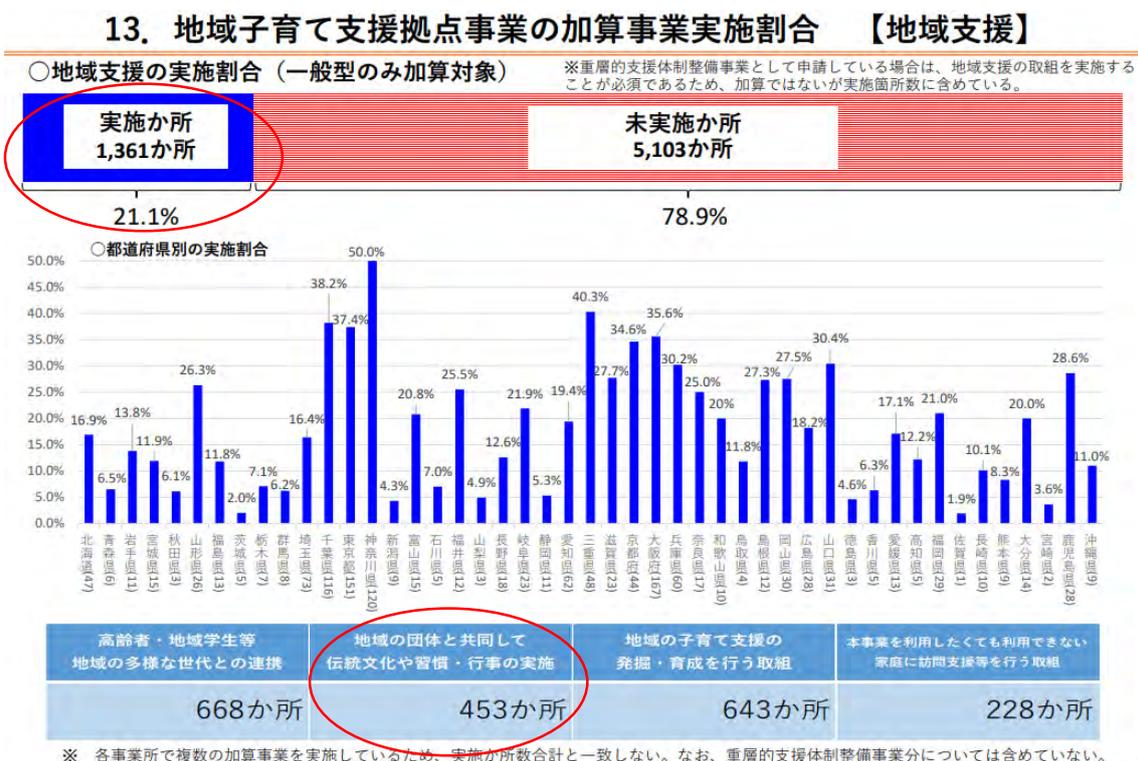
電話：090-5777-0104 (ひろば開催時間のみ通話可能)

図 3-8 実際の講座予定表

ii.地域とのつながりを育む取り組み

かるがも事業は地域の中から生まれたため、今も地域との関わりを大切に運営されており、かるがも事業が地域と利用者の懸け橋となっている。

地域子育て支援拠点事業はどこも地域との関りを大切にしているかというところでもない。図3-9より、厚生労働省によって行われた令和3年実施状況⁽⁵⁾内の地域支援の実施割合は21.1%だ。また、その中でも地域の団体と共同して伝統文化や習慣・行事の実施を行っているのは全7,856か所中453か所である。これは5%に当たる。



13

図3-9

かるがも事業の地域とのつながりをつくる取り組みは大きく3つに分けることができる。
 ①地域交流のイベントを企画、②地域行事に入りやすいようにする取り組み、③地域の中に入りやすいシステムの導入だ。

①地域交流のイベントを企画については、かるがも見守り隊を中心に行っている。かるがも見守り隊とは、長年続いている北町の地域の方(商店街の方、町内会の方、図書館の方、消防の方)による応援ボランティアのことである。ハロウィンのイベントでは、かるがも事業として団体でニュー北町商店街のお店を回り、お菓子をいただくという事を行っている。これにより、かるがも事業が商店街のお店と利用者を繋ぎ、商店街のお店を知ってもらう機会を作ることができ、利用者も今後お店の利用を考えるきっかけとなり、利用もしやすくな

るというメリットがある。

また、他にも講座講習にかかるがも見守り隊の地域小児科医師を呼ぶなど、地域のお店やお医者さんを知ってもらい、利用してもらいやすい関係を作り出している。

下图 3-10～14 は、実際に 2022 年 10 月 31 日に行われたハロウィンイベントの写真だ。

【2022/10/31 ハロウィンイベントの様子】



図 3-10 安全に気を付け、前後にスタッフを配置し、一列になって商店街のお店を回っていく



図 3-11 伊勢屋さんでおこわをもらう



図 3-11 FLOWER SHOP OHMURA で花をもらう



図 3-12 ノースファミリー実行委員会からプレゼントをもらう



図 3-13 東京トロフィーでジュースをもらう



図 3-14 アーバンシステムでお菓子をもらう

②地域行事に入りやすいようにする取り組みについては、阿波踊りや七夕がある。阿波踊りは、1993年よりニュー北町商店街ときたまち商店街合同で行われている地域のお祭りである。(2020、2021年は新型コロナウイルス拡大のため中止、2022年は縮小開催)その阿波踊りにかるがも事業が団体として参加をすることにより、利用者が慣れ親しんだ団体の一員としてお祭りに参加しやすくなり、参加する事により、地域の方との交流ができるようになる。

また、七夕では、北町に受け継がれる七夕の民族風習である「ちがや馬」に親しんでもらうため、かるがも事業内で利用者ちがや馬のモチーフを作ってもらい、それを短冊に付け、団体として近くの浅間神社や商店街に飾りつけに行くというイベントを行っている。地域の歴史や民族風習に慣れ親しんでもらい、地域に自分の子どもの作品を飾ることで、地域への愛着、地域の一員という感覚を生み出すことができる。

③地域の中に入りやすいシステムの導入については図3-15 宿場のポイントカードがある。宿場のポイントカードとは、ニュー北町商店街、きたまち商店街、北一商店街に加盟店で使用でき、400ポイントの満点貯まると、500円の商品券として使用可能か、イベントで、肉、米、洋菓子等に交換することが可能である。かるがも事業では、かるがも事業利用時に50ポイント貯めることができる。それにより、利用者がカードを持つことで、商店街のお店の利用につながり、利用者の地域の方との交流にもつながる。



図3-15 商店街で利用できるカード

iii. スタッフの方の人柄とサービス

利用者がかるがも親子の家に入室すると「おはよう～」とスタッフの優しい挨拶が聞こえ、そこから保育園が決まったかなど親戚のような雰囲気です。世間話が始まる。

かるがも事業を利用歴6年目の3児の母である岩尾さんは、かるがも親子の家で居眠りをしたことがあると言う。大切な命を毎日一生懸命に育て、見守る母親は、育児していない者には想像もつかないような重労働だ。そのような中で、子供を見守り、「休めるときに休んだらいいのよ～」と優しく声をかけてくれるスタッフがいる安心感は母親の気持ち

を樂にし、気が緩む時間をもたらしてくれる。この岩尾さんのエピソードは利用者から信頼してもらえるスタッフの温かさの象徴的なエピソードである。

かるがも事業の良さとして、スタッフをはじめとして、みんなで子供を見守る空気感だと利用者はいう。一般的な子育て広場などでは、自分の子は自分で注意を払いながら保護者同士で会話をするため、ゆっくり話せないという。かるがも親子の家では、スタッフはもちろんのこと、自分の近くにいる子供を利用者がお互いに見守るような雰囲気があるという。

その利用者同士の関係を作っているのもスタッフだ。初めてかるがも親子の家に来た方をその場にいる利用者に向けて、名前のみならず、住んでいる場所やお子さまの月齢なども紹介することにより、利用者から話しかけやすくしてくれる。普段の広場でも、スタッフと利用者が話している際、スタッフが他の利用者との共通点を見つけたら、利用者同士をつなげ、話をしてくれる。他にも、イベントや講座・講習がある際には、お互いの名前を覚えられるよう、名札立てや名札の用意をしている。

かるがも事業を利用歴3年の小林さんは、子どもを産んで子育てを始める中で、中々自分の子どもが可愛いと思えず悩んでいたが、かるがも事業を利用しはじめ、スタッフの方や利用者と話しているうちに悩みが解消でき、とても感謝していると話してくださった。このエピソードからも、スタッフが作り出したかるがも事業の雰囲気、スタッフの温かさが利用者の心の支えになっていることがよくわかる。



図 3-16 広場の様子、エプロンをつけているスタッフの方がお子さんを見守り、母親同士がリラックスして交流できるようにしている様子

3-2 かるがも事業がおかれる地域の地理

この節では、かるがも親子の家がおかれている地域の東京都練馬区北町の地理（主に人口、立地、環境）を東京都、練馬区、北町と焦点を絞りながら記述し、その特徴を明らかにしていく。

i. 東京都

東京都は年少人口が都道府県の中で最も多い158万1097名（令和4年）、同じく出生数も最も多い9万6044名、その中でも23区部では6万9345名⁽⁶⁾。表3-2より、0～4歳の人口も最も多く50万5605名、2位の神奈川県に1.6倍も圧倒的な差をつけている⁽⁷⁾。日本全体の総数が445万0716名であるため、今の日本の0～4歳の子どもは約1/9が東京で育っていることが分かる。東京都は日本内で一番地域子育て支援拠点事業の対象子育て世代の人口が多い都道府県と言えるだろう。

表3-2

令和4年1月1日住民基本台帳年齢階級別人口（都道府県別）（総計）

団体コード	都道府県名	性別	0歳～4歳	
			人	
-	合計	計	4450716	-
010006	北海道	計	156638	
020001	青森県	計	36305	
030007	岩手県	計	36020	
040002	宮城県	計	76333	
050008	秋田県	計	24275	
060003	山形県	計	32798	
070009	福島県	計	59129	
080004	茨城県	計	95341	
090000	栃木県	計	64857	
100005	群馬県	計	63968	
110001	埼玉県	計	259644	
120006	千葉県	計	219206	
130001	東京都	計	505605	
140007	神奈川県	計	326174	
150002	新潟県	計	68799	
160008	富山県	計	33600	
170003	石川県	計	40061	
180009	福井県	計	27746	
190004	山梨県	計	27276	
200000	長野県	計	69166	
210005	岐阜県	計	67463	
220001	静岡県	計	122230	
230006	愛知県	計	295169	
240001	三重県	計	60689	
250007	滋賀県	計	56304	
260002	京都府	計	86044	
270008	大阪府	計	316984	
280003	兵庫県	計	195975	
290009	奈良県	計	43475	
300004	和歌山県	計	29998	
310000	鳥取県	計	20183	
320005	島根県	計	23797	
330001	岡山県	計	69839	
340006	広島県	計	102331	
350001	山口県	計	43587	
360007	徳島県	計	23508	
370002	香川県	計	33630	
380008	愛媛県	計	43658	
390003	高知県	計	21797	
400009	福岡県	計	204001	
410004	佐賀県	計	31937	
420000	長崎県	計	47885	
430005	熊本県	計	68278	
440001	大分県	計	39420	
450006	宮崎県	計	40893	
460001	鹿児島県	計	61821	
470007	沖縄県	計	76805	

ii. 練馬区

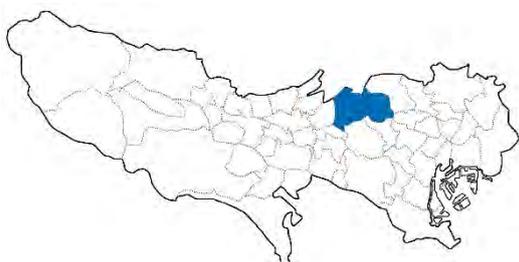


図 3-17

練馬区は子育て世代が多い東京都の中でも、0～4歳の人口が世田谷区に続いて2位の2万71011名という日本の中でも特に子育て世代が多い街となっている⁽⁸⁾。その背景として、練馬区は東京都の北寄りの中央部、23区内の北西に位置しており(図3-17)、

- ①親の通勤の際の都心への交通の利便性の高さ
- ②子どもが遊べる緑の多さ(23区内で最も多い約690か所の公園や緑地⁽⁹⁾)
- ③子どもを安心して育てられるを治安の良さ(23区内で犯罪発生率の低さが3位⁽¹⁰⁾)
- ④家を買やすい(表3-3より23区内で基準地価の低さが4位⁽¹¹⁾)

以上の4点より子育て世代が多いと考える。

また、表3-4より核家族世帯は18万0328人であり、23区内では2番目に多く⁽¹²⁾、全国の市区町村内では18番目に多い⁽¹³⁾。図3-18より、練馬区は23区内で2位の人口があり、近年も人口増加傾向のある区でもある⁽¹⁴⁾。

表 3-3

地区別	住 宅 地				
	地点数	平均価格(円/㎡)	最高価格(円/㎡)	最低価格(円/㎡)	
都心5区	千代田区	4	3,057,500	4,200,000	2,310,000
	中央区	4	1,263,800	1,580,000	995,000
	港区	10	2,033,000	5,040,000	1,380,000
	新宿区	12	768,500	1,230,000	553,000
	渋谷区	10	1,212,300	1,680,000	723,000
その他の区	文京区	7	972,400	1,170,000	750,000
	台東区	3	658,000	874,000	500,000
	墨田区	5	439,600	569,000	337,000
	江東区	14	531,300	770,000	385,000
	品川区	11	838,000	1,200,000	648,000
	目黒区	9	851,000	1,140,000	738,000
	大田区	25	475,000	672,000	380,000
	世田谷区	45	620,100	899,000	303,000
	中野区	11	591,500	782,000	489,000
	杉並区	25	592,800	747,000	452,000
	豊島区	9	677,400	880,000	546,000
	北区	12	519,600	714,000	394,000
	荒川区	6	574,300	783,000	432,000
	板橋区	19	437,800	575,000	298,000
	練馬区	37	381,600	503,000	236,000
	足立区	27	337,300	603,000	209,000
	葛飾区	20	319,800	419,000	165,000
	江戸川区	28	356,900	529,000	263,000

表 3-4

地域別	核家族世帯【世帯】	核家族以外の世帯【世帯】	非親族を含む世帯【世帯】	単独世帯【世帯】
千代田区	14,871	695	318	21,076
中央区	41,016	1,632	1,182	48,646
港区	58,962	2,465	1,555	83,099
新宿区	66,252	3,669	1,680	150,831
文京区	52,262	2,820	1,158	77,316
台東区	45,059	3,111	1,599	71,778
墨田区	63,218	4,501	1,925	75,960
江東区	131,885	6,503	2,225	123,488
品川区	93,515	5,069	2,746	136,020
目黒区	65,163	4,196	3,464	82,777
大田区	169,041	12,165	4,107	214,237
世田谷区	226,028	10,478	3,655	250,635
渋谷区	47,370	2,842	2,928	96,707
中野区	70,052	5,183	3,013	129,649
杉並区	129,392	6,739	3,041	196,919
豊島区	60,515	3,784	1,771	117,608
北区	81,615	6,428	2,513	99,015
荒川区	51,395	3,738	1,296	55,368
板橋区	130,904	8,513	3,842	170,849
練馬区	180,328	11,439	4,229	178,473
足立区	162,832	13,210	5,604	163,352
葛飾区	109,139	9,315	3,276	93,974
江戸川区	167,983	11,773	4,313	148,816

(人) ■区の総人口推移（平成23年～令和4年）※各年1月1日時点

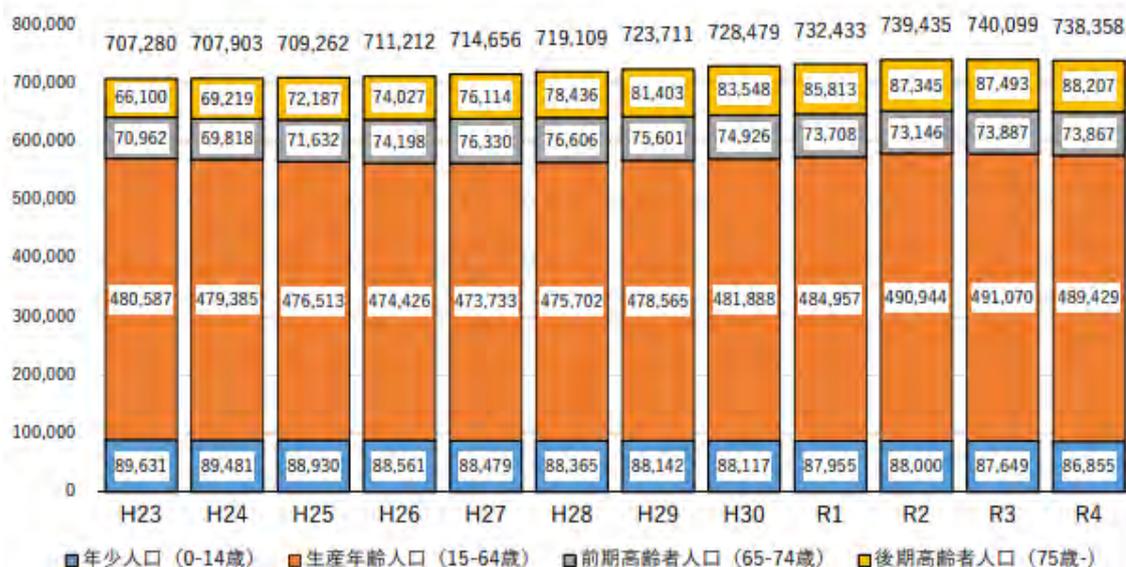


図 3-18

iii. 北町



図 3-19

練馬区の中でも北東部に位置するのが北町だ（図 3-19）。図 3-20 より、北町の交通網は主に、2つの鉄道路線がある。1つは、東武東上線が走っており、2丁目北部に東武練馬駅があり、池袋まで15分。2つ目は、6丁目南部に地下鉄・東京メトロ有楽町線の平和台駅があり、池袋まで10分、有楽町まで30分。また、バスの北町車庫もあり、JR線の赤羽駅や、西武池袋線の練馬駅、石神井公園駅、都営大江戸線の光が丘駅にもつながっている。また、北町の南西から北東にかけて羽田空港や様々な高速道路のインターと接続している環状8号線も通っている。交通の便が良く、都心に30分程度で通勤できる街であることが分かる。

東武練馬駅周辺には、飲食店が立ち並び、映画館を併設している大型ショッピングモール（図 3-21）もある。環状8号線の道沿いにも店が並び、特に平和台駅周辺にはスーパーなど特にお店が多く並んでいる。そして、旧川越街道沿いには商店街も続いており、西からニュー北町商店街、きたまち商店街、北一商店街と続いている。買い物にも困らない街である。

また、4丁目には自衛隊の駐屯地があり、2丁目には自衛隊官舎があり、その周りには都営住宅も存在する。

北町は歴史もあり、商店街のある旧川越街道は江戸時代に「下練馬宿」が置かれ、賑わいがあった。そのため、道標やちがや馬という独自の文化が垣間見える。また、図 3-22 より、昭和時代も賑わいがあった名残が今も街で見受けられる。昔から活気があり、人々が選んで北町に集まってきたことが分かる。



図 3-20 北町地図【交通網、商店街の位置】

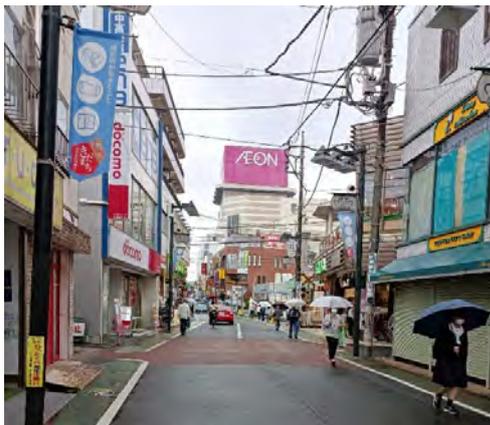


図 3-20



図 3-21



図 3-22

北町の人口は、2万6415名で、世帯数が1万5321世帯である。

かるがも親子の家を利用対象が含まれる、北町の0～4歳の人口は1024名⁽¹⁵⁾。

図3-23より、かるがも親子の家の所在地でもある2丁目と3丁目が圧倒的に0～4歳人口、つまり子育て世代自人口が多いことが分かる。図3-24より、2丁目の特徴としては、①東武練馬駅に北町の中で一番近い丁目である点、②川越街道沿いに自衛隊官舎が並んでいる点、③都営住宅がある点が挙げられる。②については、かるがも事業利用者にも自衛隊官舎に住んでいる方が多くいる。かるがも事業スタッフいわく、旦那さんの仕事のため夫婦で北町に引越してこられ、子供が生まれ、その後旦那さんの転勤が決まった際に、北町を気に入り北町に家を購入される方が多くいるという。その背景としては、北町の立地、環境が良いことのみならず、ママ友ができたことで定住を決意したという方もいらっしやった。

かるがも事業以外の子育て支援拠点事業を行っている施設が北町内には1丁目と北町にここ、7丁目と北町西小にここがある（平和台にここも北町から外れるが4丁目南にある）。にここことは、学童クラブ室を児童のいない午前中に子育て中の親同士の交流・仲間づくりの場に利用している、区が運営する事業だ。内容としては、個人利用と団体利用が可能であり、個人利用は北町にここが火、水、木、北町西小にここが火、水、木、金でどちらも午前10時から12時に開室しており、団体利用では、事前予約制で複数の親子で教室を借りることが可能である。上記より北町の子育て支援拠点事業においてかるがも事業は、月曜日に開室している点、開室日は長時間開いており、午後にも開室しているところが特徴であり、また、子育て世代が北町の中でも多く住んでいる2丁目にあることや、2丁目以外の方も足を運びやすい東武練馬駅の近くであり、需要が多いと言える場所であることがわかる。

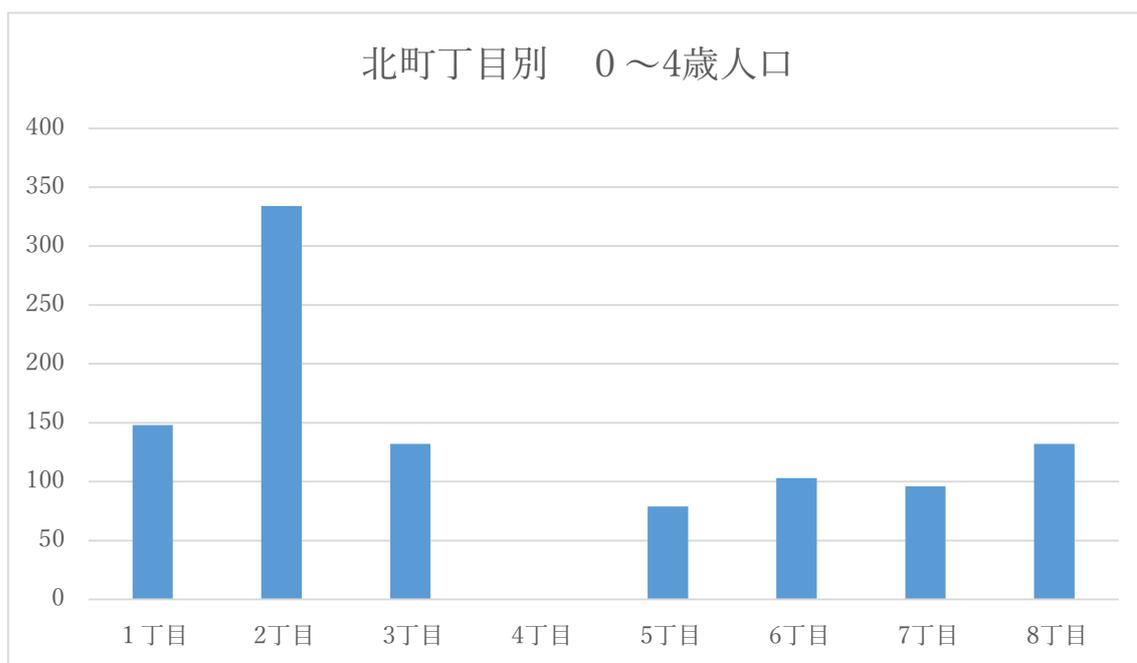


図3-23



図 3-24

3-3 現在かるがも事業に関わられている方のヒアリング

この節では、現在かるがも事業の施設長をされている田中昭枝さん、かるがも事業を支えている北町に本社を構えるアーバンシステム株式会社さんからのヒアリングより、かるがも事業がどのような方のどのような思いで支えられているか明らかにする。

3-3-1 施設長・田中昭枝さん

2022/6/13

田中昭枝さん：現かるがも親子の家の施設長



図 3-25

○田中さんがかるがも親子の家を始めたきっかけとは

かるがも親子の家ができて3年後（15年前）、当時の施設長は小林さんという方で、そのもとで工藤さんという保育士の方が働いていらっしゃった。工藤さんは田中さんの元勤務されていた保育園の同期の方で、田中さんをかるがも親子の家に来ないかと誘ってくださった。

工藤さんも田中さんも、お子さんができ、保育士からいったん離れたが、お子さんの手がからなくなったことを機にかるがも親子の家に保育士として参加される。

○なぜ保育園に戻るのではなく、なぜかるがも親子の家を選んだのか

理由は主に2つあり、1つ目は、保育園に勤務するとがつつり8時間働かなくてはならなくなり、大切な自分の子供との時間を確保することが難しくなってしまう。その点かるがも親子の家は働きやすかったこと。

2つ目は、自分が子育てを経験したことにより、母親への支援に重きを置いた仕事をしたいと感じたから。

○今のかるがも親子の家で大切にしている事

お母さんたちと密接にかかわること。お母さんたちの目には見えない裏側の思いまで考

えて接したい。そういうつながりを大切にしたい。

週3日の開園、6日開いている子育て広場もある中、少ない日にちだが、今来てくださっている利用者との関りを大事にし、利用者の要望に応えることを大切にかるがも親子の家を運営している。

北町大家族という母体の中にあるかるがも親子の家。その名の通り、田中さんは家族のよくなかかわりを大切にしていることを、かるがも親子の家に通わせていただいているうちに分かった。まず、かるがも親子の家に来る方たちの名前をしっかりと憶えていて、まるで親戚のような会話が繰り広げられる。例えば、「今日暑いね〜」「〇〇ちゃんの保育園どうなった〜」という感じだ。また、田中さんは、お母さんが休めるときに休むのは大事、と肯定し、包み込んでくれる。3-1-3 かるがも事業の特徴のなかで iii スタッフの方の温かさを挙げたが、田中さんのこの大切にしている思いを中心にかるがも事業が成り立っていることが分かった

○なぜそのような思いに至り、頑張れるのか

先輩方の後ろ姿を見てきたから。

村上孝子さんから始まり、商店街のおかみさん方が自発的に地域のために考えてつくられたかるがも事業。前例のない中、地域のためにと施設を整え、システム作り、社会福祉法人にまで大きくしてきたというのは、地域への強い思い、強いおせっかい精神がないとできないことだろう。そういった先輩方の強い思いを受け継いでいるからこそ、温かい、家族のような包み込む場を生み出すことができていることがわかった。

○今後のかるがも親子の家について

今後もこのペースで続け、つなげていきたい。

かるがも事業は、一時期練馬区が運営しているびよびよにステップアップを考えることにより将来につなげようと考えたことや、週5日することを考えたこともあった。

しかし、かるがも事業を続けた理由としては、びよびよにしなかった理由は、独自性を大切にしかつたことがあり、週5日にしなかった理由は、4月に移転した現会館の利用日数制限があることと運営資金の調達資金が困難というためだ。

もっと利用者のためにいろいろ行いたい、資金が足りないという問題が悩みだという。

かるがも親子の家に講座をしに来てくださる講師の方も口をそろえて、かるがも親子の家は人が良いからねーと仰る。その中心にいる田中さんの存在がかるがも事業の大黒柱と

なっている。今後かるがも事業が長年続いていくためには田中さんや、創立されたおかみさんの熱い思いを引き継げる方を見つけることが重要になるだろう。

3-3-2 アーバンシステム株式会社

7/8（金）9:30-

アーバンシステム株式会社

代表取締役 小柴卓人さん、企画広報部 岩本和也さん



図 3-26



図 3-27

ーアーバンシステム株式会社とはー

ニュー北町商店街に本社を置く、東京・神奈川・埼玉・千葉を中心にマンション・不動産事業を展開している企業。1990年より北町に会社を設立。

○なぜ北町に会社を設立したのか

代表取締役である小柴さんが埼玉出身であり、埼玉と東京で仕事をするのに丁度良い立地であり、交通の便が良く、家賃が安いので北町に設立された。

○かるがも親子の家との歴史

・どのようにして知ったか

旧かるがも親子の家活動場所の向かいに本社が位置していたことや、商店街の理事会により認知をしていた。

・どのようにして関わり始めたか

近年までは、北町に本社を置いているが、事業を広めるため小柴さまは北町にいることは少なく、主に赤坂の事業所にいた。北町の住民とは、商店街の理事会などで会う方々に限定

されていたことや、地域住民に開けていない事業内容により、地域住民と交流しづらいこともあり、地域貢献したいが、中々機会がなくできないでいた。

そんな中、コロナウイルスが流行し、小柴さまが拠点地を都心から北町に戻したことで創立30周年を機に、地域貢献を推進することになる。ちょうどハロウィンの時期が近付いていたため、コロナ禍でイベントが次々と中止になる中、少しでも地域の方、社員にも笑顔になって楽しんでもらいたい、また、会社の広報もできたらと考えイベントを企画し、開催すると400人ほどの地域住民が参加。かるがも事業利用者、お子さんにも好評であり、クリスマスも是非何か一緒に行えればとかるがも事業からオファーを受けその後もイベントを行うことに。かるがも事業との交流の中で施設長の田中さんの事業に対する熱意などを聞いたことで、もっとかるがも事業の支援をするなど、地域貢献をしようとして地域貢献への予算を増やすことを決意。

・現在の取り組み

かるがも事業を中心に、地域の方を楽しませるイベントを行ってきたことで、アーバンシステムに地域の方々のみならず練馬区役所の方もお話を持ってくるなど人が多く集まるようになった。現在では、しもねりかわら版という地域報の支援を行い、かるがも親子の家が移転する際には、新しい施設の内装工事の支援を行った。

・今までのかるがも事業における活動内容

1. かるがも親子の家移転に伴い、新しい施設の内装工事支援
2. イベント系

初イベント・ハロウィンイベント (16)

開催日時： 2020年10月26日(月)～10月31日(土) 10:00～16:00

イベント内容：

- ・店舗ショーウィンドーガラスに、ハロウィンフォトスポット作成(マントや帽子も用意)
- ・仮装したスタッフが立ち寄った子供にお菓子をプレゼント



図 3-28 初イベントの様子

2 回目のイベント・クリスマスイベント

開催日時：2020 年 12 月 23 日（水）～12 月 25 日（金）10:00～16:00

イベント内容：

- ・店舗ショーウインドーガラスに、クリスマスフォトスポット作成
- ・サンタやクリスマスツリーのコスプレをしたスタッフが立ち寄った子供にお菓子をプレゼント
- ・「伊勢屋 支店」との初コラボ。アーバンシステム米で作った塩にぎりを期間中お買い上げの方にプレゼント。



図 3-29 2 回目イベントの様子

2022 クリスマスイベント

開催日：2022 年 12 月 15 日（木）

イベント内容：

- ・サンタクロースがかかるがも親子の家にやってくる
- ・かかるがも事業利用者のお子さんにプレゼントを渡す



図 3-30 クリスマスイベントの様子

他

ひなまつりイベント 開催日：2021 年 3 月 1 日（月）～3 月 3 日（水）

七夕イベント 開催日：2021年7月5日（月）～7月7日（水）

ハロウィンイベント 2021 開催日：2021年10月29日（金）～10月31日（日）

クリスマスイベント 2021 開催日：2021年12月22日（水）～12月24日（金）

七夕イベント 2022 開催日：2022年7月5日（火）～7月7日（木）

ハロウィンイベント 2022 開催日：2022年10月28日（金）、30日（日）、31日（月）

3-4 現状について課題点

i. 父親の参加について

今回、調査でかるがも親子の家に通わせていただいている中で、利用者で父親を見たのは1回のみであった。その1回出会った父親は、常連さんである奥様が風邪をひいてしまったため、仕事で休みをとり、子どもを見るため代わりに来られていた。

かるがも親子の家のスタッフさん曰く、2か月に1回程父親が来ることがあるという。利用者ヒアリングの中では、父親がかるがも親子の家を見つけて来てくれて、かるがも親子の家に始めて来る際に、父親についてきてもらい、以降母親のみでかるがも親子の家を利用しているというお話を聞かせていただいた。

近年、母親の社会復帰が増えていることを背景に、父親の育児休業を国が進めている。育児休業とは、出産から原則1歳（保育所に入所できていないなどの場合は最長で2歳）まで取得できる休業であり（男女共通）、妻が専業主婦や育児休業中でも取得可能である。夫婦ともに育児休業を取得した場合、1歳2か月までの間に1年間取得ができ“パパママ育休プラス”という制度もある。厚生労働省によると令和3年度の男性の育休取得率は9年連続で上昇し、過去最高の13.97%となったが、政府が掲げる「2025までに30%」という目標にはまだ遠い。

事実、かるがも親子の家では育児休業に該当する期間の利用者が多いにも関わらず、父親の存在がちらつき始めているがまだ少ない。これからさらに父親の育児休業を推し進めていくうえで、広がっていくうえで、子育て広場が大きな役割を担うと私は考える。

理由としては、今現在父親は、母親という強い味方がいるが、世間的にはまだマイナーな存在であり孤立感を抱えやすいと考える。また、統計的に男性は女性よりも相談するという行為が少ないという事があり、初めての子育てで分からないことが多い中、余計に孤独感を感じる可能性があると考え。以上を危惧して、育児休業に踏み切れないという父親も多いのではないだろうか。

そこで、子育て広場が行うこととして提案したいのが、父親の受け皿を整えることだ。案として3点挙げる。

1点目は、1か月に1度、土曜日に子育て広場を解放することだ。そうすることにより、まだ育休に入っていない父親、迷っている父親にどのような環境があるのか知ってもらえ

る機会となり、父親同士が顔を合わせることができ、父親コミュニティを生み出すきっかけとなる可能性もある。また、夫婦で来ることができるため、母親、父親関係なく子育て広場に入る第一歩が生み出しやすくなることや、母親が利用している場合、普段どのような環境で奥さん、子どもが過ごしているか知るいいきっかけにもなると考える。しかし、土曜日に開催するためにはいつもスタッフの確保等資金がかかってくるためその点を考える必要がある。

2点目は、父親向け講座、パパママ講座を開くことだ。まず、父親だけではためらってしまう方にはパパママ講座で場に来てもらうことを目的とする。父親向け講座では、あえて母親がいないことで分かりあえることがあるのではないかと考える。これは、実際過去にかかるがも事業でも行ったことがある（3-1-2 i より）が定着はしていない。コロナ感染が終息に近づき、育休制度が整ってきた今だからこそもう一度行う価値があるのではないかと考える

父親の育児休業の推進はつまり母親のワンオペ育児からの解放であり、母親にとって一番身近な味方ができ、孤独感が減ることになる。それは、子どもの安定した発育環境に大きな影響を与えると考える。

ii. SNS の活用について

今回、かかるがも親子の家を調査していくにつれて、スタッフさんの温かさやそれ支えられた利用者の声を聴き、もっと多くの方にかかるがも親子の家を知っていただき、利用してもらえたら良いのではないかと考えた。また、かかるがも親子の家は町内会館の3階に位置するため、外から中の様子が分かりづらく、始めて来る人はなかなか入りづらい。実際、利用者にヒアリングをしたところ、初めて入るとき中の様子が分からないため何人くらいの方がいるのかもわからず、2、3回入る事を見送ったという方もいた。かかるがも事業の場合、北町の居住歴が浅い人が多いため、情報が中々入ってこないという点からも入りづらさがあるだろう。

そこで、instagram という視覚に強い SNS を使うことによって、講座やイベントの告知、写真によって中の様子を伝える取り組みを行うことを提案した。

以下は概要である。

○現在の集客ツール

- ・保健所での張り紙案内
- ・しもねり瓦版での広告
- ・施設前の看板
- ・HP
- ・福祉に関わる者からの紹介
- ・友人からの紹介

○集客における現状の課題

1. 現在の集客ツール（友人からの紹介を除く）のみだと、初回入りづらい
入りづらい理由：
内容が見えない→どのくらいの人 coming のか、どんなことをしているのかなど
物理的にも中が見えない→3階にあるため、外から活動が見えない
（かるがも親子の家利用者の声より）
2. コロナで外出を控えている方の目に留まりにくい
生まれたばかりの赤ちゃんのお母さんは外出を控えている、消毒など環境が整ったかるがも親子の家以外は家に引きこもっている（かるがも親子の家利用者の声より）

○なぜ instagram なのか

- i. 対象者（以下利用者となりうる母親のことを指す）は 30 代前後の母親が多く、30 代の instagram の利用率は 48.6% と 2 人に 1 人！さらに男女比で見ると、男性 31.9%、女性 43.8% と女性の利用者数のほうが多い。（参照：
<https://grove.tokyo/media/g0113/>）
→対象者の母親にとって身近なツールである
- ii. 写真や動画といったビジュアルメインのサービス
→1 の内容が見えないという課題を、写真を使って克服するのによいツールである
- iii. 家で手軽に見ることができる
→授乳中でも見ることができる、忙しい対象者に最適なツール
- iv. 拡散力低い、ハッシュタグ機能
→拡散力は少ないため撮影される側（現在の利用者）は少し安心。だけど、ハッシュタグ（#）という共通ワード検索の機能があるため、情報を求めている人にピンポイントで届けやすい
- v. フォロー、いいねという仕組み
→商店街のお店が運営しているアカウント、子供に関する事業を行っているアカウント（北町内）をフォローし、いいねをすることにより、お互いの存在を認知し、地域につながりを持たせることが可能

○instagram 運営内容

-アカウントについて-

- ・ビジネスアカウントを使用する（分析などができる）

(<https://anagrams.jp/blog/what-is-instagram-business-account/>)

- ・ かるがも親子の家の電話番号 or メールアドレスで登録
- ・ HP にも載せてみてもらう (今までの集客ツールに URL を載せる)

-#, フォローについて-

- ・ 北町の商店街のお店、東武練馬の子育て、子供関係のアカウントをフォローする
- ・ # は対象者が調べそうなワードを連ねる

-発信する内容-

必ず田中さんに確認を取ってから載せる

- ・ 講座、イベントの告知→今後どんなことをやるのか分かる、現在の利用者さんにも使ってもらえるかも! (私が画像を作成し、載せる)
- ・ 講座、イベントの写真→何人くらいの方がどんな感じで行っているか分かる (写真を撮ってもらい【私が参加したものは私が撮る】、私が編集して載せる)
- ・ 注意事項や制度改正があった場合など、その他載せたいこと→ (私が画像を作成し、載せる)
- ・ ストーリーで現在の利用状況発信
→ストーリーとは: 24 時間しか見ることができない投稿のこと、
今の状況を伝えられる (要相談)
- ・ DM で気軽に問い合わせ→現在電話という、少しハードルが高い連絡ツールのみ (要相談)

今回、この提案はかるがも事業の方針と合わず、実施することはできなかったが、SNS、instagram は利用している方も多いことが分かり (5-1-2 より)、中の様子が分かるだけでなく、忙しい利用者の家にいるときに繋がる感覚を持てるよいツールだと考えるため、何かの参考になるようここに記す。

iii. 地域子育て支援拠点事業の職員確保について

地域子育て支援拠点事業は、少子化対策として急拡大し、量的確保をまず行ってきた。そのような中で、昨今では支援の質の向上を求められるようになってきている。そこで、私は自身の子育てがひと段落した、保育士として働いていた方を積極的に採用するという提案をする。

この提案は 3-3-1 田中さんのヒアリングより、田中さんや元かるがも親子の家スタッフの工藤さんが、保育士として保育園で働かれていて、子育てを経て、仕事に復帰する際に地域子育て支援拠点事業を選んだという事実と、田中さんにおいては、働き始めてから 10

年、いまは施設長として多くの利用者を支えているという事実の2つを根拠とする。

自身の子育てがひと段落した、保育士として働いていた方を積極的に採用するメリットは3点ある。

1点目は、採用側からのメリットだ。質の向上として、研修をする前でも専門的知識や、親としての経験から利用者に寄り添いやすい立場であることは大きなメリットであると言えるだろう。

2点目は、働き手のメリットだ。保育士を取る方は、元々子供が好きという気持ちは人一倍強いと考える。そんな保育士に自分の子どもができたなら、自分の子どもとの時間をより長く取りたくなるのは至って自然なことだろう。しかし、金銭面のことを考えた際や、子どもが小学校に上がり少し時間ができた際にいざ社会復帰しようと考えたと、元働いていた普通の保育園で正社員として担任を持つとなると勤務時間が長く、大切にしたい自分の子どもとの時間が短くなってしまふという矛盾が生まれる。自分の子どもとの時間を大切にしたい、かつ働きたい保育士にとって、地域子育て支援拠点事業は、開館時間が短いところも多いため、パートとして働き時間的に余裕のある働き方ができると考える。また、担任制がないことなどから精神的にも余裕をもって働ける環境であると考えられる。

また、社会復帰の際、子育て最中、または終えた保育士は、子育ての経験を活かしてできることがあるのではないかとキャリアアップを考える人も少なくないだろう。その時の候補として、子育てをしてきた、またはしているからこそ母親の気持ちに寄り添える、母親のニーズが分かり、適切なサポートを提案できる子育て支援事業は、とてもやりがいを感じる職であるのではないだろうか。

3点目は、利用者のメリットだ。地域子育て支援拠点事業を利用する利用者も、子育ての先輩からのアドバイスは大変参考になり、相談相手として頼もしい存在であることは間違いなく、需要は大いにあると言える。

以上の根拠や理由から、今後子育て支援事業を推進していくにあたり、子育て中の保育士の第二のキャリアとして積極的に声をかける、仕組みをつくることにより、人材を確保や質の向上を図れ、子育て支援事業をさらに発展させることができるのではないかと考える。

具体的な提案としては、地域子育て支援拠点事業で働くという道があるという事を知ってもらうために、保育士資格を保有している方の30代、40代の方へチラシを送る、地域子育て支援拠点事業の施設外にポスターを張る等を考える。具体的に自身の子育てがひと段落した、保育士として働いていた方をどのように集めるか今後も考える必要がある。

iv. 地域子育て支援拠点事業の資金について

3-3-1 田中さんのヒアリングより利用者のためになる様々なことを行いたいと考えるが、資金が足りないという点があることが分かった。また、職員に払われるお金も少なく、職員の質の向上を考える際に直面する問題であるともいえる。子育て支援に従事したいという人が出てきた際に、金銭面で挫折しないような仕組みを作らなくてはならない。

さらに、北区は少子化が進んでいる日本の中でも数少ない子育て世代が多い町である。そのような街で、子育て支援をしっかりと手厚くし、様々な支援を試すことにより、今の若者がこのような支援があるのなら子育てをしようと思えるようになるのではないだろうか。

v. 地域の企業が地域子育て支援拠点事業を支える仕組みについて

ivより、地域子育て支援拠点事業には資金が足りていないことが分かった。また、地域の交流の少なさも以前より増えていることがわかった。それを解決する1つの案として、地域の企業が地域子育て支援拠点事業を支える仕組みを提案する。

3-3-2のアーバンシステムさんのヒアリングより、地域の企業が地域子育て支援拠点事業に対して地域貢献活動を行う利点は多いことが分かった。ここでは、利点を具体的に挙げていきたいと思う。

1つ目は、子育て世代には将来があるという点だ。子育て世代を支援することによって、親世代、子供世代と2世代との交流が生まれる。アーバンシステムさんの場合、リフォームを行っているため、将来的に子どもが大きくなった時のリフォームにつながることや、その後の子ども世代が住むとなった際のリフォームにもつながっていく可能性がある。

2つ目は、地域に向けて開けていない企業の場合、地域との相互理解の場になるという点だ。B to Cの場合だと地域の人との関りや理解を得やすいだろう。B to Bが主な場合だと、あの会社は何をやっている会社なのだろうとわからないことや、企業としても孤立感を感じてしまう。企業がその場所に物理的にある以上、地域の方の理解がある方が会社の運営がしやすいことは間違いない。

3つ目は、社員から地域貢献が目に見えてわかりやすいという点だ。子育て世代を支援する企業は、子育て世代からこの企業は子育てに理解があるのだろうと認識してもらうことができ、子育て世代にとって働きやすい場となるだろう。また、アーバンシステムさんのように、子どもたちに向けてイベントを企画するという事は、直接的に、地域の人と触れ合うことができ、地域の人を楽しませているという事が分かり、社員の会社への肯定も上がると考えられる。

子育て世代もうれしいし、企業としても利点が多い、地域によい循環を生み出すきっかけとなると考える。

第4章 かるがも事業の歴史

本章では、研究目的②かるがも事業の歴史を整理するにあたる。かるがも事業の歴史を語る上で、母体となる社会福祉法人北町大家族、更にはその母体であるニュー北町商店街振興会の歴史も紐解いていく。4-1では、年表としてまとめ、4-2では北町大家族、かるがも事業の設立の中心であった村上孝子さんからのヒアリングをもとにかるがも事業の歴史を詳細に記述していく。

4-1 年表

1988年	高齢者支援、子育て支援について商店街（旧川越街道沿いのお店）のおかみさんが中心となり勉強を始める
1991年	ニュー北町商店街振興組合として法人化する。
1993年	商店街会館・北町アートプラザを建設。 ニュー北町商店街が商店街として財政力をもてるようになる。
1998年	大型店が近くにできることが決まる。 商店街としてボランティア活動開始
2000年7月	「商店街優しさ宣言」の実践活動として高齢者支援・ミニデイサービス 「北町いこいの家」事業開始
2001年	・子育てひろば「かるがも親子の家」事業を開始 ・かるがもカード事業に着手・地域通貨「ガウ」事業スタート ・法人設立。NPO法人・北町大家族が認証される
2002年	NPO北町大家族がこども未来財団の支援決定、新たな基盤を確立
2003年	商店街に視察が全国から多く来訪（地域通貨、子育てひろば、いこいの家について）
2010年	子育てひろば「かるがも親子の家・氷川台」開設
2014年	子育て支援に向かっの、研修と人員確保に向かう活動に重点を置く
2015年	障がい者支援の求められる事業は何か検討する
2016年	NPO法人から社会福祉法人への変化と地域福祉の充実と検討を始める
2018年	社会福祉法人として法人格を変更
2021年	かるがも親子の家活動拠点を町内会会館に移転

4-2 村上悦榮さん・孝子さんヒアリング

i. 村上悦榮さん・孝子さんプロフィール



図 4-1

北町大家族理事長 村上悦榮さん

昭和 16 年北町で生まれる。ご実家：現ニュー北町商店街「東京トロフィー株式会社」

昭和 46 年ご実家で東京トロフィー株式を創業する

昭和 52 年から北町 2 丁目町内会役員・PTA 役員など地域活動始める。

その後、北町小学校 PTA 会長や、町会活動・商店街活動・青少年育成活動をする。

平成元年ニュー北町商店街振興組合を発足し、初代理事長に就任。

平成 3 年より練馬区議会議員初当選し、令和元年まで務める。

平成 4 年 2 丁目町会会館を建設

平成 5 年にはニュー北町商店街会館を設立し、北町阿波踊りを開始する。

平成 11 年 NPO 北町大家族を発足。

平成 21 年北町 2 丁目町会・町会長となる

その他、北町旧跡研究会という、北町の歴史を広め、守っていく取り組みや、地域住民の要望を聞き、交通網を整える取り組み、地域の幼稚園の理事長を務める等、地域に貢献されてきた。現在も、生まれ育った地域である北町から更に広く練馬区まで、地域のために活動を続けていらっしゃる。

北町大家族理事 村上孝子さん（悦榮さんの奥様）

上記のような活動をしている悦榮さんを支え、ご自身も地域のためなら何でもするといった心意気で、地域の様々な方に声をかけ、仲良くなり、北町の明るい雰囲気をつくっていらっしゃる。北町大家族、かるがも親子の家の設立は孝子さんと他商店主の奥様方によってつくられた。NPO 北町大家族の初代理事長を務めた。

ii. ヒアリング内容

6/13 13:00- @東京トロフィー

ここでは、村上孝子さんからのお話をもとに、かるがも事業創立からの流れを詳細に記していく。

○.北町大家族の歩み

25年前、ニュー北町商店街は、ニュー北町商店街会館・北町アートプラザをうまく活用できず活気をなくしていた。

そんな中、2000年に商店街からわずか5分のところに大型商業施設が出店することが決まった。それを機に、商店街理事会を中心に今後商店街として何ができるのか、商店街でしかできないことは何があるかと話し合ったところ、「日ごろお世話になっている、今まで商店街を支えてくださったお年寄りの方に恩返しをしたい」という気持ちがあることが分かったという。その後、「商店街やさしさ宣言」をまとめ、ニュー北町商店街会館・北町アートプラザを拠点に、孝子さんをはじめとする商店主の奥様が主体となり、周りの方を誘って巻き込み、人を増やし、サービス事業を始めることを決めた。「地域の商店街が生き延びていくには、地域の皆さんに愛される商店街でなければなりません。」

まず初めに取り組んだことは高齢者支援で、おかみさんたちは高齢者支援について勉強をし、元看護師経験者や地元の医師との協力体制を構築し、アートプラザの大広間を拠点にミニデイサービス「北町 いこいの家」を開業する。デイサービスでは主に、65歳以上の介護保険から漏れた高齢者に向けて、健康診断や健康相談を行うとともに、高齢者同士がかわるがわる講師となり特技を披露するイベント、カラオケ、絵画教室、映画上映を行うなどした。「高齢者の方たちが毎回ルンルンで楽しみにしてくれるようになり、アートプラザに活気が戻った。」その後も、事業内容を広げ、足腰の悪い高齢者や妊婦さん、障害者の方を対象に300円で商店街のお店のお買い物を代行するという取り組みや、電話相談等に挑戦して地域の方のためになる活動を行ってきた。

当時、商店街が中心となって福祉事業を始めるという前例がなかったことや、他地域の商店街でも衰退が進んでいて、商店街の未来を考えている人が多かったため、この取り組みは世間から注目を浴び、多くのメディアが取材に来た。



図 4-2 13名の商店街おかみさんのボランティアの皆さん



図 4-3 2000/7/29 練馬新聞



図 4-4 2000/8/9 毎日新聞



図 4-5 2000/8/4 読売新聞

翌年の 2001 年、当時問題になっていた幼児虐待のニュースに心を痛めたおかみさん方が「北町は幼児虐待のない町にしたい」という思いを持ち始め、子育て支援に着手する。はじめは、一人元幼稚園教諭がいた以外にだれも子育てに関する知識がなかった。しかし、「子育て広場というお母さんたちが集える場を提供してあげることや、近所にただ見守り話を聞いてくれる人がいることに意味があり、お母さんがほっとできる場所を作ることが必要なのではないかと考えた。」他の保育園を見学するなど勉強をしながらも、開業し、かるが

も親子の家という名前をつける。「川にいるかるがもの親子を地域の人みんなで応援しながら見守っている光景を思い出して付けた。可愛らしいのもポイント。」子供が遊ぶおもちゃなどは地域の方から集めるなどして仕入れを行うなど、地域の方が孝子さまの活動に感化され、イベントを手伝ってくれるようになり、地域で支え合って運営をしていった。

また、かるがも事業もお年寄りが集まるアートプラザで開催していたため、アートプラザが高齢者、お母さん、子供の3世代が集う活気のある場になり、うどん打ちや、フリーマーケットなどのイベントも開催した。



図 4-6 いこいの家の高齢者の方がサンタとなり、かるがも親子の家の子供と交流している



図 4-7 高齢者と若い親子合同でのうどん打ちの様子



図 4-8 フリーマーケットの様子、大勢の親子が利用し、にぎわっていたことが分かる

こうして事業が広がったことにより、今後この取り組みがずっと続くような仕組みにするには、もっと事業を広げていくにはどうしたらよいか考えるようになる。「どの時代でも子育て中にホッとできる場というのは必要で、常にあるべき取り組みだと思う。今は小さな水たまりのようなもので、いつかは蒸発して無くなってしまいうような事業だけど、これを川のように、いつまでも流れ続けるようにしたいと思った。」そうした中で、東大阪市議が視察に来て対談した際に、思いを伝えると、それなら NPO 法人にするべきだと助言をもらい、NPO 法人にすることに決めた^[4]。孝子さんは、今まで NPO 法人を設立した経験がなかったため、必死で勉強をし、難しい申請書を書くために何度も都庁に足を運び、最初は区役所の方に相手にしてもらえなかったが、回数を重ねていくうちに、都庁の方も手伝ってくれるようになり、無事 NPO 法人に認められた。名前を北町大家族とした。



図 4-9 2011/10/21 日本経済新聞



図 4-10 2011/11/8 朝日新聞

一方かるがも事業は、2001年に敬宮愛子さま生誕記念事業として厚生労働省が「こども未来財団」という、子育て支援事業に3年間各500万円の助成金を出すという取り組みに申請したところ、かるがも事業の事業内容が認められ、全国10カ所のうちの1つに選ばれる。選ばれた理由としては、助成金援助後も子育て支援を続けていこうとしている強い決意があったことではないかと孝子さんは語る。

その後、こども未来財団から3年間の援助を受け、資金を確保し、その後2006年より練馬区が子育て支援活動を始めることが決まり、かるがも事業は安定した資金の確保と、保育士を派遣してもらえることが決まった。それはかるがも事業のみならず、デイサービス事業、相談情報広場も練馬区から委託されるようになった。2012年からは事業を拡大し、学童保育事業も担当することとなった。

元気なおかみさんの優しいまちづくり
商店街の絆を大切にし、人に優しい地域をめざす
商店街幹部研修 研修資料

▼商店街は商店の集まりであるといわれることが多くなりました。しかし商店街が地域の中心であり、人が集う場所であることは変わりません。
▼今回は、東京都練馬区のニュー北町商店街(仮)のおかみさんの一人であり、NPOを立ち上げて活動を広げている村上孝子さんを招いて、商店街がいかに人々の交流の場を作り出していくか、様々な取り組みとともに、商店街と地域住民との共生についてお話を伺います。
▼また、講演後には、神奈川県で行った「第1回かながわチャレンジ商店街大賞」に選ばれた商店街事例紹介のDVDの上映も行います。
※本事業は、神奈川県中小企業活性化推進月間の一貫事業です

日時:2009年 2月19日(木) 14:30~16:40
場所:箱根湯本 ホテルおかだ [足柄下郡箱根町湯本本郷191 TEL:0480-85-8000]
講師:NPO法人北町大家族 事務局長 村上孝子氏
参加費:20,000円(宿泊費込) ※講演のみご参加の場合は無料となります

第2部:16:10~16:40
「第1回 かながわチャレンジ商店街大賞 事例紹介」

◎お申し込みは1月末日まで受け付けております
◎会場は小田急・箱根湯本駅から箱根湯本東郷共同バス「滝通り行」をご利用ください。(毎時15分・45分に箱根湯本駅を出发します。片道100円がかかります)
◎お車の場合はなるべく皆様でお乗りあわせの上、お越し下さい
→お申し込みは裏面の申込書をお使いください

(社)神奈川県商店街連合会
〒231-0015 横浜市中区尾上町5-80 神奈川中小企業センター 3F
tel:045-633-5184 fax:045-633-5185

必活! 商店街に仲間を呼ぶ! 活動は動き出す!

練馬区・NPO法人「北町大家族」
事務局長 村上 孝子さん

「人々集まることこそ商店街の基」という村上孝子さん。商店街の活性化には、商店街の絆を大切にし、人に優しい地域をめざすことが大切だと語る。商店街が地域の中心であり、人が集う場所であることは変わりません。今回は、東京都練馬区のニュー北町商店街(仮)のおかみさんの一人であり、NPOを立ち上げて活動を広げている村上孝子さんを招いて、商店街がいかに人々の交流の場を作り出していくか、様々な取り組みとともに、商店街と地域住民との共生についてお話を伺います。

また、講演後には、神奈川県で行った「第1回かながわチャレンジ商店街大賞」に選ばれた商店街事例紹介のDVDの上映も行います。

※本事業は、神奈川県中小企業活性化推進月間の一貫事業です

必活! 商店街に仲間を呼ぶ! 活動は動き出す!

「人々集まることこそ商店街の基」という村上孝子さん。商店街の活性化には、商店街の絆を大切にし、人に優しい地域をめざすことが大切だと語る。商店街が地域の中心であり、人が集う場所であることは変わりません。今回は、東京都練馬区のニュー北町商店街(仮)のおかみさんの一人であり、NPOを立ち上げて活動を広げている村上孝子さんを招いて、商店街がいかに人々の交流の場を作り出していくか、様々な取り組みとともに、商店街と地域住民との共生についてお話を伺います。

また、講演後には、神奈川県で行った「第1回かながわチャレンジ商店街大賞」に選ばれた商店街事例紹介のDVDの上映も行います。

※本事業は、神奈川県中小企業活性化推進月間の一貫事業です

よこはま 南風 152号 2012年 4

図 4-11 2012/2 横浜市商店街総連合会

事業が安定し、事業も拡大できた段階で、孝子さんは活動をしている中で地域の方に「障がい者の支援もしてくれたらうれしい」と言われたことが忘れられず、更に事業を広げられるように NPO 法人北町大家族を社会福祉法人にすることを決め^[5]、2017年、社会福祉法人北町大家族となり、現在に続く。

○精力的に地域のために働かれてこられたが、頑張れた理由や、うまくいった理由は何か

「まず、組織としてうまく進めることにおいては、人を集めるときに重要なことは、楽しそうにやること。特に大変なことをやる時ほど楽しそうにすることが秘訣。そうすることで、自然と人は活動が気になり始め、集まってくる。そして、何かをしてもらったり、手伝ってもらった際には、感謝を惜しみなく伝えることが大切。あなたのおかげでできた気持ち伝えることで、また手伝ってくれるようになる。女性は頼りあう事でパワーを発揮し、チームでやっていけるようになると思う。」

そうして、孝子さんのリーダー力やパワーで人を巻き込み、北町大家族、かるがも親子の家を大きく成長させることができた。

「その中で、人が増えたとえで大きなことを進めようとする、必ず方向性の違いなどが出てくる。そこで、本当に大事なことほどみんなで考えるのではなく、本当に信頼できる少人数のみで話し合い決めることが、大きなことをする際には大切。」

「事業の取り組みとしては、住民にとって必要不可欠な取り組みだと思ったため勇気をもって踏み出すことが大事。住民が家に引きこもってしまうのはもったいない。特に主婦の方は家に引きこもりがちになってしまう。そこで、拠点を作ることで人が出てくるように促し、声を掛け合うような関係を築くことでそこでやっと自分の街だな～と思えるようになるのではないか。」

○今のかるがも事業について考えることは何か

「今は、田中さんに任せていて、田中さんがとても頑張ってくれている。時代が変わっているのもう今のはわからないことも多いが、いつの時代も母親がホッとできる場は必要だと思うから、今後も続いていくと良いと思っている。」

村上孝子さんは、このヒアリング内容からもわかる通り、非常にパワフルで、会うだけで元気になるようなパワーを持っていらっしゃる。孝子さんによって基盤が作られたかるがも事業をいかにしてその思いを後世につなげられるかが私たちにとって今後の大きな課題となる。

[4]任意団体から NPO 法人にする利点とは

NPO 法人は、法律に基づいて設立した団体。法律に定める所定の条件と手続きをクリアした団体が NPO 法人として活動することができる。

メリットとしては、

①法人名義での契約が行えるようになる →助成金や、行政などからの委託事業は「法人格」が応募条件になる場合が多い。

②社会的に信用度が高くなる →参加者や会員、従業員を集めやすくなる

③少額の費用で設立できる

④税制面での優遇がある。

初期のかるがも親子の家はまだ資金が少なかったことや、取り組みを長く続けたいという思いがあったことから、NPO 法人になることのメリットが多かったことが分かる。

[5]NPO 法人から社会福祉法人にする利点

社会福祉法人とは、社会福祉事業を主な目的とする場合に設立ができる法人。

社会福祉法人を設立するためには、大変厳しい設立基準が定められていて、それらを満たしたうえでさらに所轄庁の認定を受け、登記をして初めて設立することができる。設立するまでに 2~3 年かかるケースがほとんど。

また、社会福祉事業が安定的に供給するために、施設を運営するための土地や建物もしくは定期預金などの資産（1000 万以上）が必要となる。

メリットとしては、

①施設設備に対して一定額の補助金を受けられる

②法人税、固定資産税、寄付等についての税制優遇処置が受けられる

③社会福祉施設職員等を対象に国家公務員の給付水準に準拠した退職金制度が設けられている

④第一種社会福祉事業という特に利用者への影響が大きい社会福祉事業を運営できるようになる（障がい者支援施設、養護老人ホームなど）

北町大家族の障がい者支援を行いたいという思いや、複数の事業を掛け持つため金銭面の補助があると良い点から、社会福祉法人に移行したことがわかる

第5章 アンケート分析

本章は、研究目的①かるがも事業の現状を細かく記述し文献とし残す、⑤先行研究と本研究の調査を分析するにあたる。5-1 でアンケート調査の概要、結果、先行研究の10年前の調査のまとめを提示し、5-2 で今回の調査により明らかになった事と10年前の調査との比較をまとめる。

5-1 アンケート調査概要とその結果

5-1-1 では、本研究アンケートの元となった先行研究のアンケート調査内容を記載する。5-1-2 では、本研究アンケート内容とともに先行研究のアンケート内容との変更点を記載する。5-1-3 では、本研究アンケート結果を記載する。

5-1-1 10年前のアンケート調査内容

今回のアンケート調査は10年前のかるがも親子の家の実態と比較をするため、先行研究である「母親の地域参加からみた育児支援事業を支える商店街とNPOの協同関係構築プロセス—東京都練馬区ニュー北町商店街育児支援事業「かるがも親子の家」を対象として—」内のアンケート（表5-1）をもと作成した。

表 5-1

アンケート調査		
	概要	内容
対象者	現在のかるがも事業を利用している母親30名	1, 対象者について 家族構成、居住歴、かるがも事業を利用している年数 (2-6-1)
調査方法	直接配布・直接回収	2, かるがも事業の利用形態 かるがも事業の利用目的 (2-6-2)
配布期間	2011年10月12日 ～2011年10月17日	3, かるがも事業内での交流の実態 3-1, かるがも事業内での母親コミュニティの入り込みやすさ (3-1-1) 3-2, かるがも事業内での母親同士の交友関係 (3-1-2)
配布数	30名	4, 商店街行事への参加 4-1, (N=30) 商店街行事への参加の有無 (3-2-1) 4-2, (N=15) 商店街行事への参加要因 (3-2-2) 4-3, 商店街行事での新規交流 (4-1-1)
回収数	30名 (100%)	4-4, 商店街行事参加による地域への印象の変化、またその後の地域参加の有無、地域参加の形態 (4-1-2)

5-1-2 本研究のアンケート調査内容

対象者：現在のかるがも事業を利用している母親 30 名

調査方法：直接配布・直接回収、かるがも事業スタッフの方による配布・回収

配布期間：2022 年 8 月 29 日～9 月 12 日

配布数：30 名

回収数：30 名

アンケート内容：

0. 対象者について

家族構成、居住歴、かるがも事業を利用している年数、世帯数

1. かるがも事業の利用目的

2. かるがも事業での交流実態

- ・かるがも事業での母親コミュニティの入り込みやすさと入り込めた要因、
- ・かるがも事業外での母親同士の交流

3. 商店街との交流

- ・商店街行事での参加の有無、今後の行事への参加希望の有無
- ・商店街との交流、利用店舗について

4. 新型コロナウイルス感染拡大禍の子育て 相談相手について

5. かるがも事業利用者が利用している SNS

上記下線部は先行研究のアンケート内容と変更点である。変更点について解説する。

1 点目は、商店街行事への参加についての質問だ。ここ数年、新型コロナウイルス拡大により、商店街行事の開催中止や縮小され、10 年前と商店街行事の状況が大きく変わっている。そのため商店街との交流については、商店街行事への参加希望の有無や、商店街利用店舗や商店主との交流があるかどうかという質問へ変更した。

2 点目は、10 年前と大きく異なる、新型コロナウイルス拡大禍という特殊な時期に子育てを行った利用者とかるがも事業の関係について明らかにするため加えた。

3 点目も 2 点目と同様、この 10 年間で大きく変わったインターネット、SNS についての質問を加えた。[3-4 ii より]

○配布したアンケート

かるがも親子の家利用者アンケートのご協力をお願い

卒業研究の論文に使わせていただくアンケートです。ご協力よろしくお願いいたします。

所要時間：3分程

長岡造形大学造形学部建築・環境デザイン学科4年 栗田涼子

お名前（任意）：

北町居住歴： 年

世帯：一世帯 二世帯以上

家族構成：旦那様 お子様（人数： 名）実母 実父 義母 義父

かるがも親子の家利用歴： ヶ月（ 年）

1. かるがもの利用について

i. かるがもの利用目的を教えてください

()

ii. かるがもによってできた母親同士の交流はありますか（SNSも含む）

交流なし（かるがも親子の家利用時に話す程度）

会ったら会釈するようになった

会ったら少し話すようになった

かるがも以外でも定期的に交流を持つようになった

かるがも以外でも頻りに交流を持つようになった

iii. かるがもの母親コミュニティには入り込みやすかったですか

はい→入り込めた理由を教えてください

子供 保育士 講座 その他 ()

いいえ

2. 商店街との交流について（東武練馬駅南側、旧川越街道沿いのニュー北町、北町、北一商店街を指す）

i. 商店街行事に参加したことはありますか（先日の七夕、ハロウィン、クリスマスなど）

はい

いいえ→今後商店街行事があったら参加したいと思いませんか

非常に思う 思う 思わない

ii. 商店街でよく使用するお店や、お店の方で交流のある方がいらっしゃる方は店名、店の方のお名前を教えてください

よく行く店の名前 ()

話すお店の方のお名前 ()

→裏面にも2問ほど質問がございます

3. コロナ禍での子育て中、子育ての相談が気軽にできる方がいた方は関係性を教えてください。(親族を除く)(複数回答可)

ママ友 昔からのご友人 かるがもの方 その他 ()

4. この中にお使いになっている SNS があれば教えてください

twitter instagram tiktok その他

ご協力ありがとうございました。

図 5-2

5-1-3 アンケート結果

表 5-3 選択式の回答一覧

番号	名前（任意）	居住歴	世帯	家族構成	かるがも歴	母親同士の交流	商店街行事の参加
1			1 核家族	旦那+子[1]	2~6か月	交流なし	あり
2			1 核家族	旦那+子[1]	2~6か月	定期的に交流	
3	小谷野さん		3 核家族	旦那+子[1]	2~6か月	会釈程度	なし[今後参加したい]
4	トクナガさん	1年未満	核家族	旦那+子[2]	2~6か月	会釈程度	なし[今後参加したい]
5	タチバナさん	10年以上	核家族	旦那+子[2]	~1か月	交流なし	なし[今後参加したい]
6	小林さん		3 核家族	旦那+子[2]	3年	定期的に交流	あり
7			2 核家族	旦那+子[1]	2~6か月	少し話す程度	なし[今後参加したい]
8			3 核家族	旦那+子[1]	2~6か月	交流なし	なし[今後参加したい]
9	菅原さん		2 核家族	旦那+子[2]	1年	定期的に交流	あり
10	サクマさん		核家族	旦那+子[1]	~1か月	会釈程度	なし[今後参加したい]
11			3 核家族	旦那+子[1]	2~6か月	定期的に交流	なし[今後参加したい]
12			3 核家族	旦那+子[2]	2年	定期的に交流	あり
13	野村さん		3 核家族	旦那+子[2]	~1か月	交流なし	なし[今後参加したい]
14			1 核家族	旦那+子[1]	2~6か月	少し話す程度	なし[今後参加したい]
15		4~9	核家族	旦那+子[2]	2年	頻繁に交流	なし[今後参加したい]
16			2 核家族	旦那+子[1]	~1か月	交流なし	なし[今後参加したい]
17			核家族	旦那+子[2]	4年以上	少し話す程度	あり
18	大塚さん	4~9	核家族	旦那+子[1]	1年	定期的に交流	あり
19	川名子さん		核家族	旦那+子[2]	2~6か月	交流なし	
20		4~9	核家族	旦那+子[1]	2~6か月	少し話す程度	なし[今後参加したい]
21		10年以上	二世帯以上	両親+旦那+子[1]	1年	会釈程度	あり
22	中村さん	10年以上	核家族	旦那+子[2]	4年以上	少し話す程度	あり
23	梅村さん		3 核家族	旦那+子[2]	3年	定期的に交流	あり
24			3 核家族	旦那+子[2]	3年	頻繁に交流	あり
25		4~9	核家族	旦那+子[2]	7か月~11か月	少し話す程度	なし[今後参加したい]
26	田中さん		1 核家族	旦那+子[1]	2~6か月	少し話す程度	なし[今後参加したい]
27	本田さん		1 核家族	旦那+子[1]	2~6か月	交流なし	あり
28			3 核家族	旦那+子[1]	2~6か月	少し話す程度	
29			3 核家族	旦那+子[1]		頻繁に交流	
30			1 核家族	旦那+子[1]	2~6か月	頻繁に交流	

表 5-4 利用目的

番号	名前（任意）	子どもの遊び場	交友を広げる場	自分の息抜き	その他
1		○	○		
2		○			
3	小谷野さん	○			
4	トクナガさん	○	○		
5	タチバナさん	○	○		
6	小林さん	○			
7		○	○		
8					
9	菅原さん	○	○	○	
10	サクマさん	○			
11		○			
12		○	○		
13	野村さん	○	○	○	
14			○		
15		○	○		
16		○	○		
17		○	○		
18	大塚さん	○	○		スタッフさんとの おしゃべり
19	川名子さん	○			
20		○	○		
21		○	○		
22	中村さん	○			
23	梅村さん	○	○		
24		○	○		相談場
25		○	○	○	
26	田中さん	○			
27	本田さん	○			
28		○		○	
29		○	○	○	
30			○		講座利用

表 5-5 コミュニティの入り込みやすさ

番号	名前（任意）	入り込みやすかった			入り込みづらい、入り込めてない
		子ども	かるがもの方	講座	
1		○	○	○	
2	小谷野さん		○		
3	トクナガさん	○	○		
4	タチバナさん				○
5	小林さん	○			
6		○	○	○	
7		○			
8	菅原さん		○		
9	サクマさん	○	○		
10					○
11			○	○	
12	野村さん	○	○		
13			○		
14					
15		○			
16		○			
17	大塚さん		○		
18	川名子さん	○	○	○	
19		○			
20		○			
21	中村さん	○	○		
22	梅村さん				
23		○	○		
24		○	○	○	
25	田中さん	○	○	○	
26	本田さん	○	○		
27					
28					
29					
30					

表 5-6 商店街で利用するお店

番号	名前 (任意)	ある									ない
		伊勢屋	十字ベーカリー	天池	大黒屋	オーロール	ケーキ屋さん	米屋	ローヤル	ほねつぎ練馬整骨院	
1		○									
2											○
3	小谷野さん										○
4	トクナガさん										○
5	タチバナさん	○	○								
6	小林さん	○		○							
7		○									
8											○
9	菅原さん	○			○						
10	サクマさん										○
11		○									
12		○									
13	野村さん	○				○					
14											○
15		○									
16				○							
17											○
18	大塚さん	○		○							
19	川名子さん										○
20							○				
21											○
22	中村さん										○
23	梅村さん	○									
24		○						○			
25				○					○	○	
26	田中さん										○
27	本田さん	○									
28											○
29		○									
30		○									

表 5-7 新型コロナウイルス拡大禍の子育ての相談相手について

番号	名前（任意）	ママ友	昔からの友人	かるがもスタッフ	その他
1				○	
2			○	○	
3	小谷野さん	○			
4	トクナガさん	○			
5	タチバナさん		○		
6	小林さん	○		○	
7					親族のみ
8		○	○	○	
9	菅原さん	○	○	○	
10	サクマさん		○		
11			○	○	
12					
13	野村さん	○			
14			○		
15					
16					親族のみ
17		○		○	
18	大塚さん	○	○	○	
19	川名子さん	○	○		
20					職場の先輩
21		○	○		
22	中村さん	○	○		
23	梅村さん	○		○	
24		○	○		
25		○	○	○	
26	田中さん		○	○	
27	本田さん			○	
28					
29			○		
30		○			

表 5-8 母親の SNS 利用について

番号	名前 (任意)	Twitter	instagram	tiktok
1		○	○	
2		○	○	
3	小谷野さん	○		
4	トクナガさん		○	
5	タチバナさん			
6	小林さん	○	○	
7		○	○	
8		○		
9	菅原さん	○	○	
10	サクマさん	○	○	
11			○	
12				
13	野村さん		○	
14		○	○	
15				
16		○	○	
17		○		
18	大塚さん	○	○	
19	川名子さん		○	
20			○	
21			○	
22	中村さん	○	○	
23	梅村さん	○	○	
24		○	○	
25		○	○	
26	田中さん	○	○	
27	本田さん	○	○	
28		○		
29		○	○	
30		○	○	

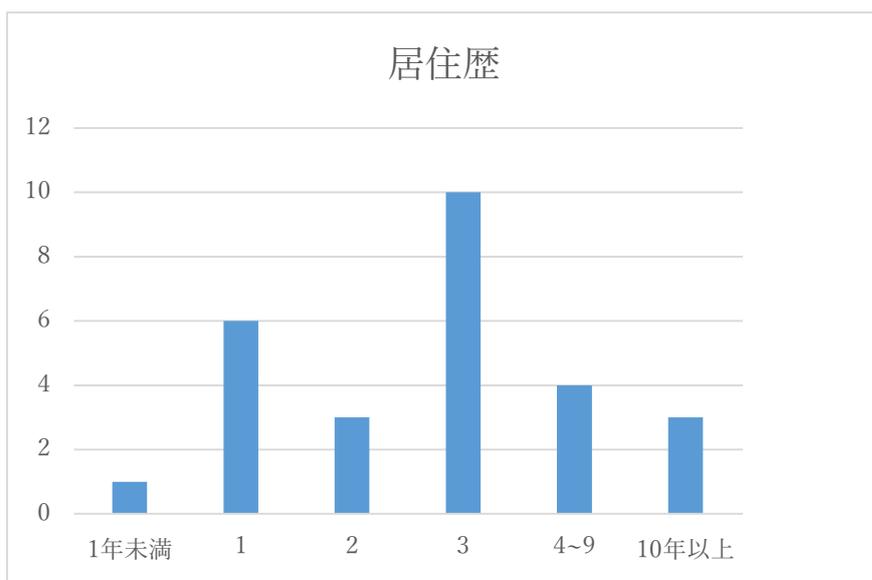
5-2 アンケート結果による分析

5-2-1 アンケートの質問ごとの分析

この項では、質問結果1つ1つから読み取れることをまとめていく。

0. 対象者について

i. 北町居住歴



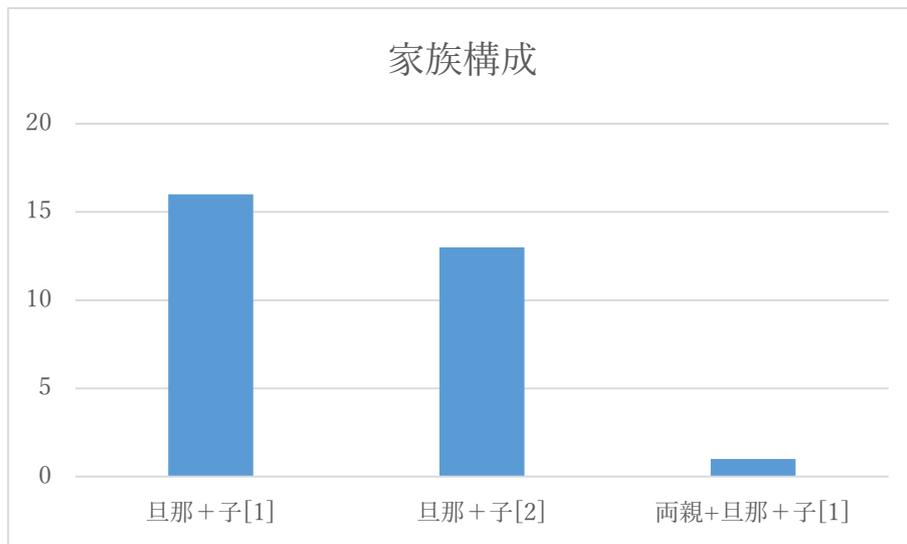
N=27 図 5-3

表 5-3 選択式の回答一覧より、図 5-3 を作成。かるがも事業利用者の北町居住歴が最も多いのは3年で10名、6割以上の利用者が北町に来てから3年未満で、まだ来てから日が浅いことがわかった。

ii. 世帯

表 5-3 選択式の回答一覧より、かるがも事業利用者の30名中29名が核家族であり、基本夫婦で子育てを行っている事がわかった。

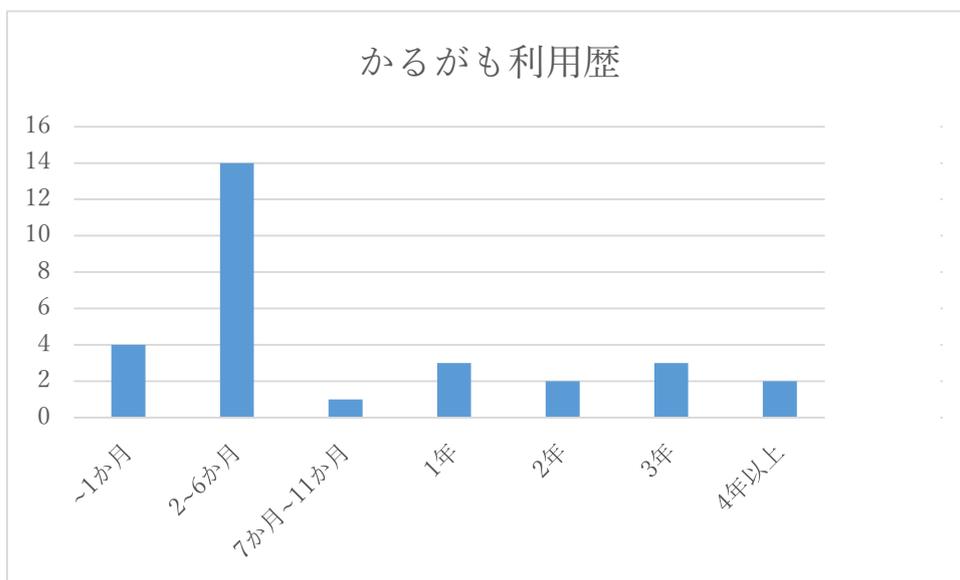
iii. 家族構成



N=30 図 5-4

表 5-3 選択式の回答一覧より、図 5-4 を作成。かるがも事業利用者の過半数（17 名）が 1 人の子どもを育てている、子育て初心者であることが分かる。3 名差という少ない差で 2 人の子どもを育てている方もいることから、子育て初心者のみならずかるがも親子の家を利用している方が多いことがわかる。3 人以上育てている家庭はない。

iv. かるがも利用歴



N=29 図 5-5

表 5-3 選択式の回答一覧より、図 5-5 を作成。かるがも事業利用者で利用歴の長さが最も多いのは、2~6 か月であることが分かった。この結果は、利用者ヒアリングより、練馬区の保育所は 1 歳までに入れないと中々入れないという状況や、育休取得で社会復帰される利用者が多いことから、6 か月ほどで子供を保育所に入れるためかるがも事業を利用しなく

なるという事が考えられる。

また、1年～4年以上も2～3名の利用があることから、かるがも事業は長く利用されるような魅力があることが推測できる。

0. 対象者についての i～iv より、

利用者は北町に来てから日が浅い核家族が多いことから、知らない土地で夫婦2人で子育てという新しいことを始めている方が多いことが分かった。子どもが1人の家庭が最も多いが、僅差で2人育てている方が多いことが特徴的である。かるがも事業利用歴は、1歳までに保育園に入れる利用者が多いため2～6か月が最多である。しかし、7か月以降も一定数いることから、かるがも事業は長く利用されるような魅力があることも推測できる。

1. かるがも事業利用目的

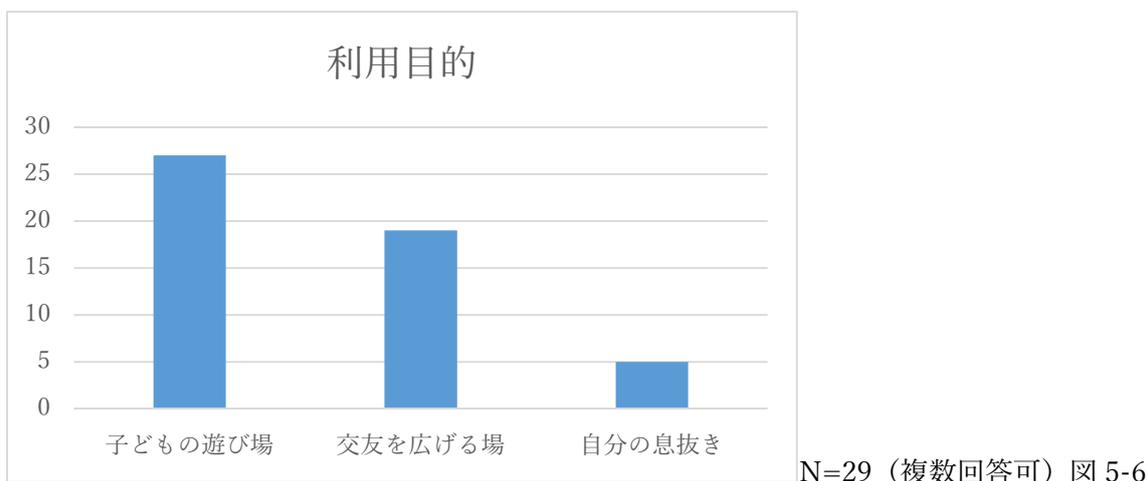


表 5-4 記述式回答より図 5-6 を作成。回答を大きく「子供の遊び場」、「(回答者の) 交友を広げる場」、「自分の息抜き」の3つに分ける。

利用目的として最も多かったのは「子供の遊び場」27名でほとんどの利用者が「子供の遊び場」のために利用していることが分かる。記述回答の中でも多かった回答が、「様々なおもちゃで遊べるから」という回答が5件あり、調査の際に、子どもによって興味を持つおもちゃが異なり、おもちゃ屋さんで数あるおもちゃからどれを購入したらいいのか分からないため、子育て広場に連れていくという方が一定数いることがわかった。また、「子供の刺激のため」という回答も4件あり、利用者ヒアリングの際にお聞きしたのは、子育て広場に子どもを連れていくことで、こどもは周りの子どもを観察し、刺激を受け、成長が早くなることが多くあるということで、子どもの成長のために利用されている方も多かった。

「子供の遊び場」に次いで多いのが「(回答者の) 交友を広げる場」19名だ。こちらは単

体で回答している方は少なく、「子供の遊び場」と両方で記載している方が多いのが特徴的だ。加えて、「自分の息抜き」5名より、かるがも事業が利用者の息抜き、リラクソの場として機能することがわかる。利用者ヒアリングでは、家で話せない乳幼児と2人でのいるのはとても息が詰まるため、かるがも親子の家で話せる人がいることはとても助けになっているとおっしゃっていた。

以上より、かるがも事業は子供の遊び場として大きく機能しているとともに、利用者の交流の場、憩いの場、相談の場として子育て中の利用者の支えの場として機能していることがわかった。

2. かるがも事業での交流実態

i. かるがも事業での利用者コミュニティの入り込みやすさと入り込めた要因

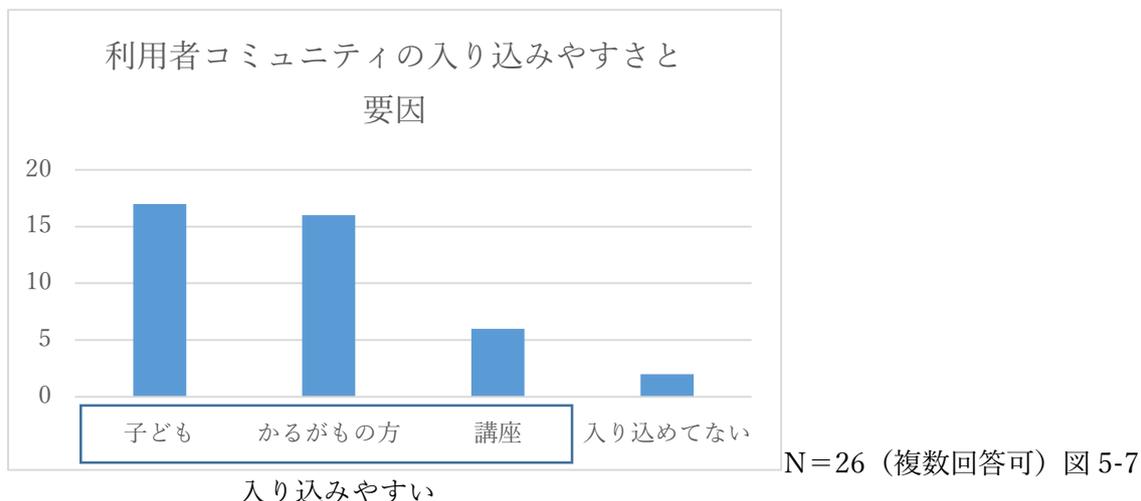


表 5-5 よりより図 5-7 を作成。26 名中 24 名が入り込みやすいと回答した。その要因として最も多かったのは、“子ども” (17 名) だ。実際調査中に、子ども同士が近付いた際、子どもが何か面白いアクションを起こしたときなどをきっかけとして、自然に話始める利用者が多くいた。

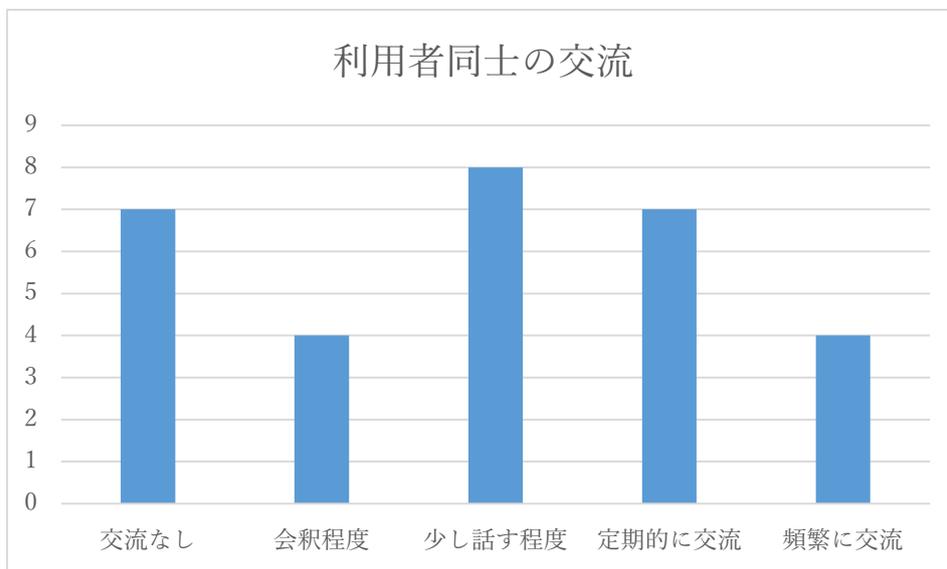
次に多いのが、1 件差で“かるがも事業のスタッフ (保育士)”だ。調査中には、スタッフが利用者同士に共通点を見つけ、会話の中でつなげたり、初めてかるがも親子の家に来た人が輪に入りやすいよう代わりに初利用者の自己紹介をしてあげる等、スタッフによる利用者同士をつなげる計らいを多く見た。

“講座利用”では、スタッフの考えで名札を付ける点や、同じ場所に長く座るため隣の方と話やすくなるという事が想像できる。

また、入りこめていないと答えた利用者のはかるがも事業に来始めてから、1 か月の方と 3 か月の方であり、まだ来館数が少ないと予想できる。

以上より、子どもを介した母親の自発的な交流と同じくらい、スタッフによる計らいが利用者コミュニティの入り込みやすさにつながっていることが分かった。

ii. かるがも事業以外での母親同士の交流



N=30 図 5-8

表 5-3 選択式の回答一覧より、図 5-8 を作成。1/3 以上の方がかるがも事業以外でも交流を行い、2/3 以上の利用者がかるがも事業以外にも何らかの関りを持つようになったことがわかった。

交流なしの方の中には、外で他の利用者とは会ったことがないため会釈や少し話す程度に回答できなかったという方も含まれる。また、交流なしと回答している方はかるがも事業を利用し始めてから 6 か月以下のことから、半年を過ぎれば必ず何かしら利用者同士のかかわりができることが分かる。

このことより、かるがも事業は利用者のつながりを作る場として機能していることがわかった。

2. i, ii より、スタッフが利用者同士の繋がりを促しており、それにより、かるがも事業を 7 か月以上利用することで、必ずかるがも事業以外でも利用者同士の交流が生まれていることが分かった。

3. 商店街との交流

i. 商店街行事での参加の有無、今後の行事への参加希望の有無

表 5-3 より、商店街行事に参加したことがある利用者は 25 名中 11 名であり、これは新

型コロナウイルス拡大禍より参加できるものが少なかったことが考えられる。

商店街行事に参加したことがない方に、今後商店街行事に参加したいかを“とても参加したい”“参加したい”“参加したくない”で回答してもらったところ、100%の方が“参加したい”を回答した。参加したくないわけではないがとてもしたいかと言われるとそれほどといったところで、そこまで商店街行事に興味があるわけではないことが分かった。商店街との交流のための行事参加を利用者に行ってもらうためには、スタッフからの告知や介入が必要であると考えられる。

ii. 商店街との交流、利用店舗について



図 5-9

表 5-6 より、商店街利用店舗において明らかになったことが 3 点ある。1 点目は数値で、利用者が商店街で最も利用している店舗は“伊勢屋”で過半数の 16 名が利用している。伊勢屋は商店街の中に 2 つありどちらも路面店の和菓子屋であり、和菓子の他にもおにぎりなども購入できる。伊勢屋の支店はニュー北町商店街内にあり、かるがも事業とも交流が深く、ハロウィンイベントの際にはおこわやおにぎりをプレゼントして下さる。次に多いのが“商店街によく利用するお店がない”という方で 12 件だ。

2 点目に、店舗の系統についてだ。7 店舗中 6 店舗が食に関する店舗であることが分かる。

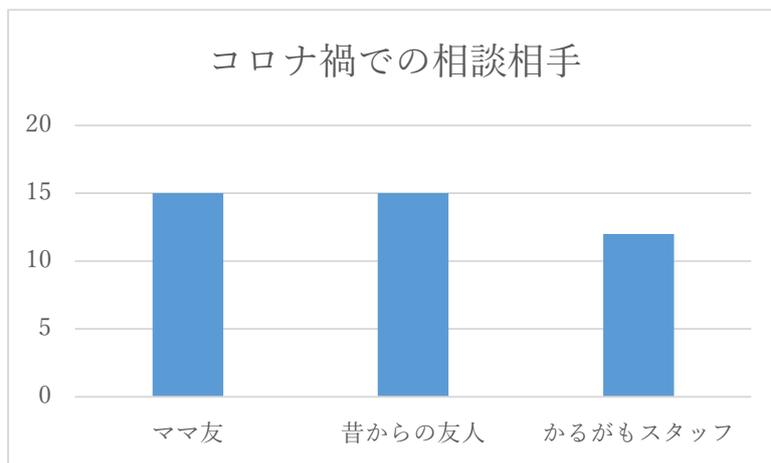
3 点目に、店舗の所属商店街についてだ。図 5-9 からわかる通り、ニュー北町商店街は伊勢屋のみ名前が挙がり、他はきたまち商店街、北一商店街という結果になった。つまり、かるがも事業を生み出したニュー北町商店街との関わりはほとんどないことが分かる。

以上より、かるがも事業利用者がよく使う商店街のお店は食に関する店舗であり、かるが

も事業とつながりのある伊勢屋は利用者もよく利用をし、食の店舗が少ないニュー北町商店街との関りは少ないとわかった。

3 i, ii より、新型コロナウイルス感染拡大により、商店街行事に参加したことがある利用者は全体のうちの半分以下にとどまっており、参加したことない方今後の参加については積極的ではないが参加したいという結果から、今後商店街行事が開催される際にはスタッフによる告知や介入が参加のカギになることが分かった。また、商店街行事が少なくなっている中で、商店街との交流は、かるがも事業とイベントを行っている伊勢屋さんをかるがも事業利用者はよく利用し、その他商店街では食品店をよく利用していることがわかった。しかし、かるがも事業の元となるニュー北町商店街は食品店が少ないため、ニュー北町商店街とかるがも事業利用者との交流はほとんどなくなっていることが分かる。

4.新型コロナウイルス感染拡大禍の子育て



N=25 (複数回答可) 図 5-10

表 5-7 より、図 5-10 を作成。相談相手として“ママ友”“昔からの友人”が同率で 15 件、“かるがも親子の家スタッフ”が 12 件という結果となった。利用者ヒアリングで、“ママ友”と答えた人の中には、同世代の友人だと子育てをしていない人もおおいため中々相談はできないからママ友はありがたいという方や、コロナ禍に出産で心細かったが、第一子の子育て中にかるがも事業で出会ったママ友に LINE で励ましてもらいとても心強かったというコメントをいただいた。また、“昔からの友人”と回答した方の中には、昔からの友人が北町に先に引越してきており、知り合いがいる街だと安心なため、自分も北町に引越してきたという方もいらっしやった。

核家族が多い利用者は、コロナ禍では実家への帰省が難しいことや、ちいさい赤ちゃんを気軽に外に連れ出すのは難しく、家に引きこもりがちになり孤独を感じる利用者も多いと推測する。そのような中で、かるがも事業は感染対策もしっかりと行っており、安心できる環境で、ママ友との出会いの場、スタッフと育児の相談できる場を提供し、利用者の孤独な子育てを支えていたことが分かる。

5. かるがも親子の家利用者が利用している SNS

表 5-8 より、instagram が最も多い 23 名、次いで Twitter が 21 名。該当する SNS を全く行っていない方が 3 名と、かるがも親子の家利用者のほとんどが instagram か Twitter を行っていることが分かった。

5-2-2 アンケート結果を複数組み合わせた分析

1 節では各質問ごとの結果からわかった事を挙げたが、本節では各質問結果同士を掛け合わせて相関があったものを挙げていく。

i. 家族構成×かるがも親子の家利用歴

表 5-3 より、下記表 5-9 を作成した。

かるがも利用歴 /家族構成	～1 か月	2～6 か月	6～11 か月	1 年	2 年	3 年	4 年以上
夫婦+子 1 人	2	12	0	1	0	0	0
夫婦+子 2 人	2	2	1	1	1	2	2

かるがも事業利用歴半年を超える方は、10 名中 9 名に子どもが 2 人いるという事が分かった。反対に、子どもが 1 人の方は 15 名中 14 名はかるがも事業を半年までの利用であることが分かった。

ii. 居住歴×家族構成（×かるがも親子の家利用歴）

表 5-3 より下記表 5-10 を作成した。

居住歴/家族構成	～1 年	1 年	2 年	3 年	4～9 年	10 年
夫婦+子 1 人	0	6	4	4	2	1
夫婦+子 2 人	1	0	1	5	2	2

かるがも歴：2 年以上 (4/5)

上記表より家族構成が“夫婦+子 1 人”で北町居住歴が最も多いのは“1 年”。3 年以下の方が 15 名中 12 名という、ほとんどの“夫婦+子 1 人”が北町居住歴が 3 年以下なことがわかつ

た。この結果より、かるがも事業利用者は子どもが0~3歳の親子であるため、子どもを作
ることを考えている、または子どもができた、子どもが生まれたタイミングで北町に引越
してくる方が多いことが分かる。

“夫婦+子2人”においては、北町居住歴が最も多いのは“夫婦+子1人”より2年長い”3年
“。また、“夫婦+子2人”×”3年“と回答した方の5人中4名がかるがも事業利用歴が2年
以上であることから、“夫婦+子1人”と同様に子どもを作ること、または子ど
もができた、子どもが生まれたタイミングで北町に引越してくる方が多いことが分かる。

以上より、北町は子育てを考える夫婦に選ばれる街であることがわかった。

iii. 利用者同士のかるがも事業以外での交流×かるがも親子の家利用歴（×家族構成）

表5-3より、かるがも事業利用歴半年以下の方は18名中10名の過半数が利用者同士のか
るがも事業以外での交流が“交流なし”（7名）、“会釈程度”（3名）と回答した。

それに対し、かるがも事業利用歴半年を超える方は12名中1名を除いた11名が少し話
す程度以上の交流があることが分かった。

よって、かるがも事業における利用者同士のかるがも事業以外での交流は、半年以上の利
用で、安定した交流関係が生まれることが分かった。しかし、iよりかるがも事業を半年以
上利用する方は、子どもが2人いる方が多いため、子どもが1人の方は交流関係が安定す
る前にかるがも親子の家を離れる方が多いことが推測できる。

iv. 商店街行事の参加について×かるがも親子の家利用歴

表5-3より、商店街行事に参加したことがある方は11名中9名がかるがも事業利用歴が
1年以上である方だとわかった。反対にかるがも事業利用歴1年以上の方は10名中9名が
商店街行事に参加経験があると回答した。

よって、かるがも事業を長く利用すると、商店街行事に参加する人が増えることが分か
った。

v. 利用者コミュニティの入り込みやすさ×かるがも親子の家利用歴

表5-3、5より、利用者コミュニティの入り込みやすさの要因として“かるがもスタッフの
方”と回答した方について分析する。

かるがも事業利用歴が半年以下の方が14名中7名と答えたのに対して、半年を超える方
は10名中9名という結果となった。

よって、半年以下の方より半年の方の入り込みやすさの要因として“かるがもスタッフの
方”の回答率が高いことから、かるがも事業を長く使っている方スタッフの利用者同士を
つなげる計らいにありがたさを感じている、または、スタッフの利用者同士をつなげる計ら
いにありがたさを感じ、信頼しているためかるがも事業を長期利用していると推測できる。

vi. 商店街でよく利用するお店×商店街行事の参加について

表 5-3、6 より、商店街でよく利用するお店があると回答した方について分析する。

商店街行事に参加したことがない方が 14 名中 8 名に対して、ある方が 11 名中 9 名商店街でよく利用するお店があると回答した。

よって、商店街行事に参加したことがある方の方がいない方より商店街のお店を利用している傾向があることが分かった。

5-2-3 今回の調査と 10 年前の調査との比較

本節では先行研究アンケート結果によりまとめられた項目と本研究アンケート内で一致している質問項目においての比較を行う。

i. 居住歴と家族構成

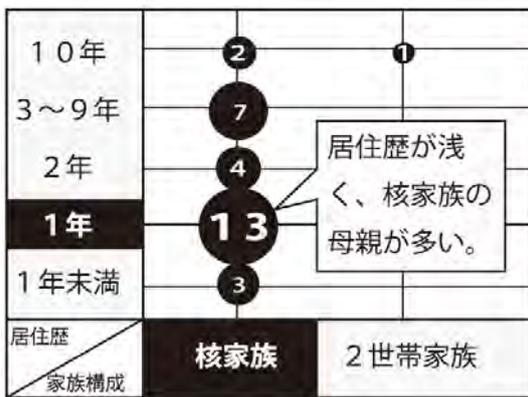


図 5-11 2011 年の結果

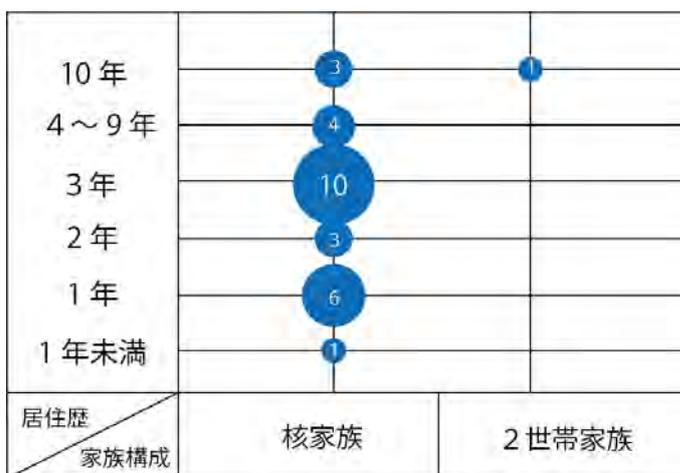


図 5-12 本研究の結果

図 5-11、12 より、2011 年のかかるがも親子の家利用者は居住歴 1 年の方が最も多く、核家族の利用者は 30 名中 29 名であったのに対し、現在（令和 4 年時点）のかかるがも親子の家利用者は、北町居住歴 3 年の方が最も多く、核家族の利用者は 28 名中 1 名であった。

2011 年と現在は、どちらも 2 世帯家族 1 名以外は核家族という結果になり、北町居住歴の最も多い年数は 1 年から 3 年に上がっている。

ii. 利用目的

2011 年は利用目的を 1 つのみの回答としているが、本研究では複数回答可としている。

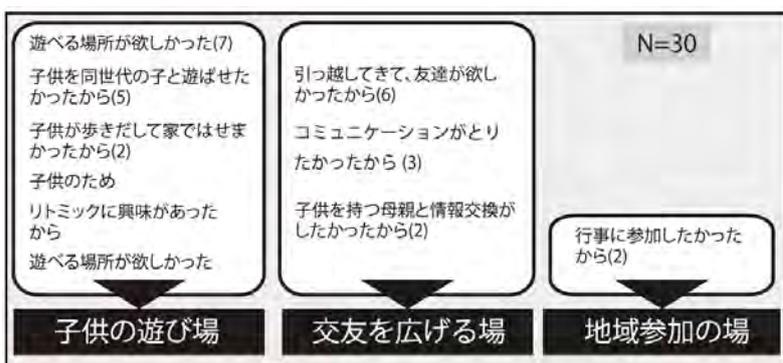


図 5-13 先行研究結果

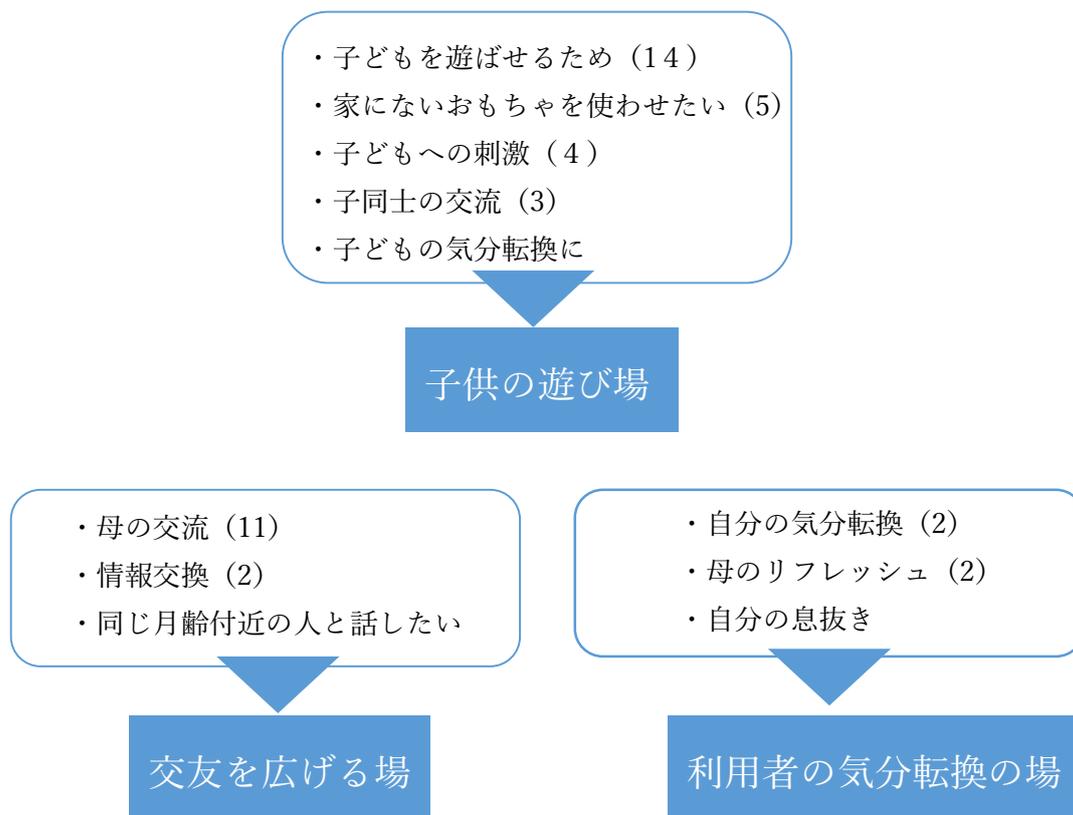


図 5-14

図 5-13、14 より、利用目的は、2011 年と現在どちらも最も多い回答が子供の遊び場のため、次に交友を広げる場のためである。2011 年は地域参加の場のためという項目に 2 回答あったが、現在は地域参加のためという回答は一つもなかった。新型コロナウイルス拡大のため、行事が積極的に行われていなかったことが要因と考えられるだろう。それに対し、現在では、2011 年にはなかった母の気分転換のためという項目にくくれる回答が 5 件もあった。よりかるがも事業の利用者への温かい環境が確立し、利用者にとっての憩いの場となった、あるいは近年の親世代が 10 年前より、より自分にも視点を向けられるような子育てができるようになったのではないかと考える。

iii. 利用者コミュニティ形成

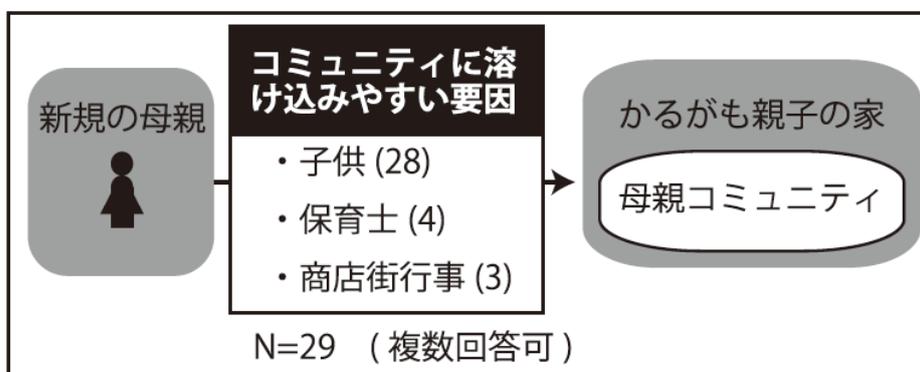


図 5-15

図 5-15 より、2011 年では、30 名中 29 名が母親コミュニティに「自然に入り込めた」と回答し、自然に入り込めた理由として最も多い要因が子ども（28 名）、保育士（4 名）、商店街行事（3 名）という結果になった。

一方、現在では、26 名中 24 名が利用者コミュニティに「自然に入り込めた」と回答し、自然に入り込めた理由として最も多い要因が子ども（17 名）、スタッフ（*2011 年保育士と同じ）（16 名）、講座（6 名）という結果になった。

このことから、スタッフが利用者同士をつなげることが多くなったこと、商店街行事は減ってしまい、コミュニティに溶け込む要因ではなくなったが、スタッフが企画している講座によってコミュニティに入り込みやすくなっていることがわかった。

iv.利用者同士の交流拡大

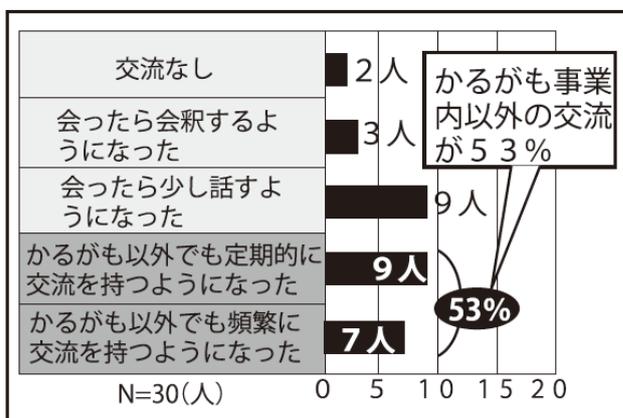


図 5-16 先行研究結果

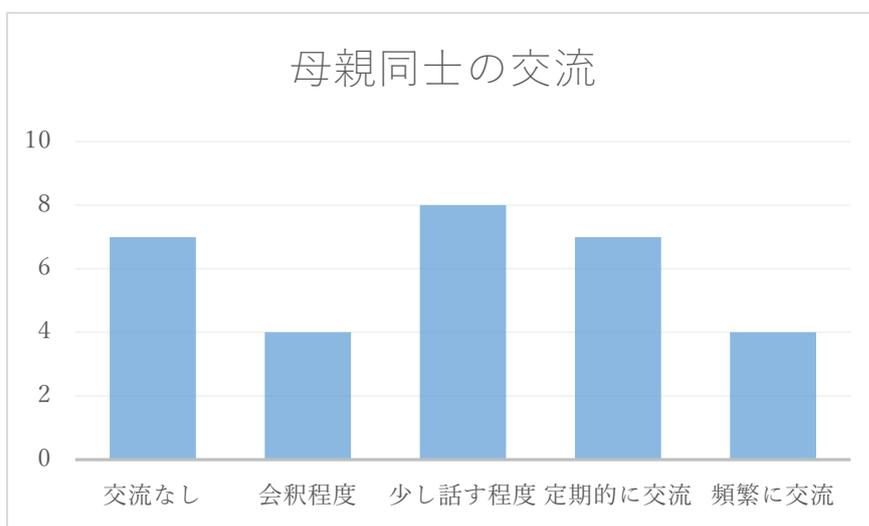


図 5-17 本研究結果

2011年の調査の項目に加え、今回のアンケートではSNSの交流も含むこととした。

図 5-16、17 より、2011年の調査では過半数以上がかるがも事業以外でも定期的に・頻繁に交流をしているという結果であったが、現在は交流なしの利用者が増え、かるがも事業以外でも定期的に・頻繁に交流している母親は1/3程度になっている。

2011年よりはより親密な母親の交流は築けていないが、30名中23名もの母親にかるがも親子の家以外でも何かしらのかかわりをもたらしていることが分かった。

密接な交流が減ってしまった要因としては、新型コロナウイルス拡大のより人との交流をできるだけ避けている事や、10年前より共働きが増加したことにより利用者のかるがも事業歴が短くなったことで、密接な交流関係が生まれる前に利用しなくなってしまっていることが挙げられる。

第6章 結び

6-1 結論

第3章では、1-2 研究の目的①に当たる、“かるがも事業の現状を細かく記述し文献とし残す”こと、③にあたる“かるがも事業の現状から見えてきた今後の子育て支援の課題を探る”を行った。

3-1 では事業内容をまとめるとともに、現地調査により明らかになったかるがも事業の内容の特徴をまとめた。特徴としては、主に3つあり i. 講習、講座、イベント、行事の充実 ii. 地域とのつながりを育む取り組み iii. スタッフの方の人柄とサービス。特に、ii. 地域とのつながりを育む取り組みは、地域子育て支援拠点事業のうち実施しているのは5%であり、かるがも事業が商店街から生まれた事業である背景から、今でもその色は濃く残り、全国に増えてきた地域子育て支援拠点事業の中でもかるがも事業の特色として活きていることがわかった。さらに、iii. スタッフの方の人柄とサービスでは、かるがも事業利用者のヒアリングより、かるがも事業のスタッフの温かさが利用者を与える影響が分かり、子育て支援の場で1番大切になるのはスタッフの人柄であることがわかった。

3-2 では、かるがも事業がおかれる地域の地理をまとめた。かるがも親子の家は、地域子育て拠点事業の対象である子育て世代の人口が最も多い都道府県である東京都、その中でも子育て世代が23区内で2番目に多い練馬区に位置し、練馬区の中でも北町は交通の便もよく、街で買い物が完結でき、歴史もあるバランスのとれた街であり、子育て世代が定住しやすい条件がそろった街であることが分かった。そのような北町の中で、かるがも親子の家は最も子育て世代が多い2丁目ですらに駅前に近いという非常に需要のある場所に位置していることが分かった。

3-3 では、現在かるがも事業に関わられている方のヒアリングをまとめた。かるがも事業施設長田中さん、アーバンシステム株式会社さんにお話を伺った。田中さんは、かるがも事業設立に関わったおかみさんから続く子育て支援の熱い思いを引き継ぎ今現在かるがも事業を支えており、アーバンシステム株式会社さんはそんな田中さんの熱心な姿を見て、かるがも事業を支えてくださっている。熱い思いは時代を超えてつながり、広がり、良い循環を生み出すことが分かった。

3-4 では、上記のヒアリングや現地調査により明らかになった地域子育て支援拠点事業の課題点を挙げた。i. 父親の参加について、ii. SNSの活用について、iii. 地域子育て支援拠点事業の職員確保について、iv. 地域子育て支援拠点事業の資金について、v. 地域の企業が地域子育て支援拠点事業を支える仕組みについての5点を取り上げた。大きく共通するのは、子育て支援の現場は日々時代背景とともに更新されて必要があり、そのような中で国が子育て支援のために年々政策を更新していくが、それが子育て支援の現場の端々までいきわたっていない状況であることが分かった。

第4章では、1-2 研究の目的②に当たる、かるがも事業の歴史を整理する”ことを行った。かるがも事業を設立された村上悦榮さん、孝子さんにお話を伺い、それをもとにかるがも事業の歴史変遷を細かく記述した。かるがも事業は商店街の危機に陥った際に、商店街としてできることは何かと考え、利用して下さっている人への恩返しなど人のつながりを大切にしたいという思いに至った。商店街のおかみさんという“女性のパワー”、“おせっかい精神”が福祉事業に繋がり、そこから地域の方の希望を取り込む形で事業を大きくし、今に至る。今では希薄になっている、地域のつながり、人のつながり。そこから生み出されるパワーが昔にはあったと考え、今の近隣住民との希薄化問題を改善する必要性は高い。

第5章では、1-2 研究の目的①に当たる、“かるがも事業の現状を細かく記述し文献とし残す”こと、④に当たる、“先行研究と本研究の調査を分析する”ことを行った。本研究のアンケート調査結果と先行研究のアンケート調査結果より分析を行った。

分析より、北町は子育てを考える夫婦に選ばれている街であることが明らかになり、かるがも事業利用者は慣れ親しんでいない町で夫婦二人で“子育て”という新しいことを始めている方が多いことが分かった。また、少子化の中、子が1人の家庭に続いて僅差で子2人の過程が多いことが特徴的であった。かるがも事業利用歴は、共働きの利用者が増え、1歳までに保育園に入れるため2~6か月が最多である。しかし、7か月~4年以上も一定数いることから、第2子が生まれてもリピートしてかるがも事業を利用する方が多く、長く利用されるような魅力があることが分かった。

かるがも事業利用目的としては、子供の遊び場として大きく機能しているとともに、利用者の交流の場、相談の場、更には“自身の気分転換の場”として子育て中の利用者の支えの場として機能していることがわかった。これは先行研究の際にはなかった回答であり、かるがも事業が以前よりさらに利用者にとって居心地の良い場所へと変化していること、10年前より親世代がより自分にも視点を向けられるような子育てができるようになったことが考えられる。

利用者コミュニティについては、入り込みやすさでは、子どもを介した利用者の自発的な交流と同じくらい、かるがも事業スタッフによる計らいが利用者コミュニティの入り込みやすさにつながっていることが分かった。これは、10年前よりスタッフの介入を要因に挙げた利用者が格段に多くなっている。加えて、利用歴が長いほどスタッフの介入を要因に挙げていることも分かった。かるがも事業以外での利用者交流については、かるがも事業を7か月以上利用することで、必ずかるがも事業以外でも利用者同士の交流が生まれていることが分かった。しかし、6か月以下（子が1人の方があたる）はコミュニティが安定する前にかるがも親子の家を離れる方が多いことが分かった。さらに、10年前より密接に交流する利用者が減っていることが分かったが、それは共働きによる利用歴の低下、新型コロナウイルス拡大による交流の自粛が影響していると考えられる。

利用者と商店街の交流については、利用者がよく使う商店街のお店は食に関する店舗であり、かるがも事業とつながりのある伊勢屋は利用者もよく利用をし、食の店舗が少ないニ

ユー北町商店街との関りは少ないとわかった。行事については、新型コロナウイルス感染拡大により、商店街行事に参加したことがある利用者は全体のうちの半分以下にとどまっているが、商店街行事に参加したことがある方の方はない方より商店街のお店を利用している傾向があることが分かった。このことより参加したことない方については、今後の参加については積極的ではないが参加したいという結果から、今後商店街のお店を利用してもらうためにも、行事が開催される際にはスタッフによる告知や介入が参加のカギになることが分かった。

新型コロナウイルス感染拡大禍の子育てについては、かるがも事業は感染対策もしっかりと行っており、安心できる環境で、ママ友との出会いの場、スタッフと育児の相談できる場を提供し、利用者の孤独な子育てを支えていたことが分かった。

6-2 今後の展望

地域子育て支援拠点事業としては、近年まで量を増やしてきたが、今後は質を上げていくことが重要になると考える。それは、資金面、内容はもちろんのこと、“人”の質を上げることが最重要である。育児というハードで尊い仕事を行う親を支援対象としている以上、利用者が心を開けて頼りにできる環境を目指さなければならない。そのような環境を作るのは、その場にいるスタッフである。これは、私がかるがも事業を調査している中で身に染みて感じたことだ。若い育児初心者の利用者が一番居てほしい、心を開けるのはどのような人か。おせっかい精神を持つ、育児経験者の先輩、利用者のお母さん世代ではないだろうか。そのような人をしっかり雇用していくためには、近頃問題となっている保育士の雇用と同様、賃金の向上が必要だと考える。近年、国や自治体の政策として子育てをする者への給付金等“間接的”な取り組みが多い中で、地域子育て拠点事業は“子育てをする親”を身近で“直接”支えられる場である。子育て中の親を精神的にサポートをしたり、サポートし合える親同士の関係を構築できる場の重要性を再認識し、国や自治体が手厚くサポートすることが必要だと考える。それが親の心の安定につながり、親の安定が今後の日本を支える子どもの基礎を形成していく。

—20年繋がり広がりつづける地域のおかみさんの思い—

それは、地域で困っている人、大変そうな人の手助けをしたい、役に立ちたい、地域の人に笑顔になってほしいという思い。

その思いは田中さんに繋がり、地域に広がり続けている。

6-3 かるがも事業の方からのお言葉

かるがも事業設立者・村上孝子さんより



「多岐にわたる丁寧な取材とその表現とまとめ、大変お疲れ様でした。東京の片隅の商店街が始めた子育て支援事業を取り上げて下さった事に感謝しています。始めた頃のメンバーや出来事をいろいろ思い出しました。頑張ってきて良かったと思えました。有り難う御座いました。」

かるがも事業現施設長・田中昭枝さんより



「卒論に向けての大学生の受け入れ…

何が提供できるのだろうか？課題と一緒に取組めるだろうか？

事実、ドキドキした。不安で申し訳なく…

でも、何度も足を運び、本事業を理解しようとする姿、積極的に利用者、関係者に関わりをもつ栗田さんの姿に、熱い思いを感じました。

そして本事業をより広げ深めるために様々な提案をしてくださいました。運営の現状や私共の力不足により検証までには至りませんでした。コロナ禍で人数制限もありアンケート等回答数の少ない中でも、この論文の中でデータから読取る考察、課題点の提示、提案の視点は、新しい角度であり、その深さは栗田さんの「寄り添う」という姿勢から生まれていると感じています。

また、本事業に様々な視点からの提案で「目的のための変化」の道筋をいただくとともに、本論文の中で、終始に渡り本事業の歴史と想いを大切に言葉を繋げていただきました事、心より感謝申し上げます。

これからも地域に根ざした子育て事業、地域発展の思いを胸に頑張ります。

最後に新しい社会へ旅立つあなたに…送ります。

「あなたの言葉が…あなたの手が…あなたの丁寧な姿が…ひとり、ひとりを"大丈夫"に
してくれている。それがあなたです。」
出会ってくれてありがとう。」

謝辞

本論文の作成にあたり、終始適切な助言を賜り、また丁寧に指導して下さった渡邊先生に感謝します。そして、本研究の趣旨を理解し快く協力して頂いた、社会福祉法人北町大家族かるがも親子の家田中さま、平野さま、斎藤さま、村上悦榮さま、孝子さま、アーバンシステム株式会社の皆様および調査対象者の皆様に心から感謝します。

また、支えてくださった大学職員の皆様、家族、友人に感謝いたします。中間発表で助言をくださった建築環境デザイン学科の先生方、ありがとうございます。本当にありがとうございました。

参考文献表

- (1) 厚生労働省 2021年 国民生活基礎調査 I世帯数と世帯人員の状況 4児童のいる世帯の状況 <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa21/dl/02.pdf>
(参照 R4.10.11)
- (2) (5) 厚生労働省 地域子育て支援拠点事業について 地域の子育て支援拠点事業実施状況 令和3年度実施状況 <https://www.mhlw.go.jp/content/000963075.pdf>
(参照 R4.10.11)
- (3) 横内秀理、後藤春彦、佐藤宏亮 母親の地域参加からみた育児支援事業を支える商店街とNPOの協同関係構築プロセス—東京都練馬区ニュー北町商店街育児支援事業「かるがも親子の家」を対象として—について 公益社団法人日本都市計画学会 都市計画論文集 vol.47 No.3 2012/10
- (4) 社会福祉法人北町大家族 HP <http://www.daikazoku.sakura.ne.jp/index.html> (参照 R4.10.21)
- (6) 総務省 (R4.1.1) 「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数 (令和4年1月1日)」 https://www.soumu.go.jp/main_content/000762475.pdf (参照 R4.11.29)
- (7) 総務省 (R4.1.1) 「令和4年1月1日住民基本台帳年齢階級別人口 (都道府県別) (総計)」 https://www.soumu.go.jp/main_content/000829116.xlsx (参照 R4.11.29)
- (8) 東京都 (R4.1.1) 第6表 区市町村、年齢 (各歳) 及び男女別日本人人口 <https://www.toukei.metro.tokyo.lg.jp/juukiy/2022/jy22q10601.htm> (参照 R4.11.29)
- (9) 練馬区「観光・催し ねりまの公園」 https://www.city.nerima.tokyo.jp/kankomoyoshi/annai/fukei/nerima_park/index.html
(参照 R4.11.29)

- (10) 警視庁 (R4.11.10) 「10 月累計 区市町村の町丁別、罪種別及び手口別認知件数」
https://www.keishicho.metro.tokyo.lg.jp/about_mpd/jokyo_tokei/jokyo/ninchikensu.html
<https://ieagent.jp/blog/eria/tokyochianranking-54350> (参照 R4.11.29)
- (11) 東京都財務局 (R4.9.21) 「令和 4 年東京都基準地価格」
https://www.zaimu.metro.tokyo.lg.jp/kijunchi/R4nen/02-01_R4kijunchikakaku.pdf (参照 R4.11.29)
- (12) 総務省 (2020) 「統計ダッシュボード」
<https://dashboard.estat.go.jp/graph?screenCode=00400> (参照 R4.11.29)
- (13) graph to chart (R4.1.4) <https://graphtochart.com/japan/nerima-ku-nuclear-families.php> (参照 R4.11.29)
- (14) 練馬区 (R4) 「巻末資料」
https://www.city.nerima.tokyo.jp/kusei/keikaku/vision2/revicedap_all.files/Kannmatu.pdf
(参照 R4.11.28)
- (15) 練馬区 (R4.1.1) 「統計調査 人口統計 令和 4 年 1 月 1 日現在 練馬区の人口
(町丁目別・男女別・年齢別) (Excel : 310KB)」
https://www.city.nerima.tokyo.jp/kusei/tokei/jinko/chocho_nenrei/r04/0401nenreityoumoku.html (参照 R4.11.29)
- (16) アーバンシステム株式会社 HP
https://www.urban-system.co.jp/blog/news/halloween_2020 (参照 R5.1.5)